

総合分析実験センター 自己点検評価報告書

平成19年度

平成19年度総合分析実験センター自己点検評価報告書

1. 部局等の目的・目標

佐賀大学総合分析実験センターは、本学における教育研究の総合的支援を目的とした全学共同施設で、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」「放射性同位元素利用部門」および平成18年度新設の「環境安全部門」の4部門からなる。

生物資源開発部門は、組換え DNA 実験と動物実験に関する教育と研究、実験講習、教育訓練および安全管理を担当する。機器分析部門は、大型高性能分析機器類の維持管理、総合的な分析・測定に関する教育と研究、分析機器の使用講習会および教育訓練を担当する。放射性同位元素利用部門は、放射性同位元素等の利用に関する教育と研究、放射性同位元素等安全取扱講習会および安全管理を担当する。環境安全部門は、環境分析機器の安全管理と教育講習、環境整備及び環境分析に関する研究の支援、環境問題に関する共同研究の受入れ及び相談窓口、環境問題についての教育及び情報提供を担当する。これらの4部門が機能的に連携して学内の研究教育を総合的に支援する。

総合分析実験センターに関する本学の中期計画として、次の3項目が定められている。

- ①総合分析実験センターを基盤として、実験機器類の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境を整備する。
- ②総合分析実験センターを研究支援組織の中核として整備し、研究室、研究機器等の共同利用を進める。
- ③学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築を図る。

2. 部局等の概要

佐賀大学総合分析実験センターは、社会的な要請度の高い生命、環境、材料等の研究やこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を総合的かつ効果的に支援する体制を構築するために、平成14年4月1日に、従来の「機器分析センター」と「放射性同位元素実験室」を「機器分析分野」、「放射性同位元素利用分野」に改組し、それに新設の「ライフサイエンス分野」を加えて学内共同教育研究支援施設として設立された。平成15年10月1日の佐賀医科大学との統合にあたり、同医科大学の動物実験施設、実験実習機器センター、R I 実験施設をさらに加え、生命科学領域の教育研究支援体制を充実させ、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」および「放射性同位元素利用部門」の3部門からなる全学的な研究教育支援施設として新たな「総合分析実験センター」に生まれ変わった。さらに、平成18年度に「環境安全部門」を新設し、これらの4部門が連携して、学内の理工、農、医、文化教育学分野の研究教育を総合的に支援している。センター長（併任）、副センター長（併任）、准教授4名、助教2名、教務員2名、技術専門職員6名、非常勤職員4名、研究支援推進員1名から構成されている（H20年5月1日現在）。

平成19年度のセンター利用者は、延人数69,942名、センターを利用して得られた業績は、著書9件、学術論文（総説含む）82件、学会発表302件で、センターが貢献した外部資金獲得は、59件で総額123,614,000円である（4.センター利用実績参照）。また、研究業績の多くに学生が関与しており、センターは本学の研究教育に大きく貢献している。

3. 領域別の自己点検評価

(1) 教育支援の領域

ア 教育支援環境に関する事項

総合分析実験センターを基盤として、実験機器類および生物資源の維持・開発と放射性同位元素利用に関する設備の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境を整備することに、以下の事項を中心に、取り組んだ。

- 1) 学生等が利用した機器とそれによって得られた研究成果の収集を年度ごとに行なうこととし、その調査対象とする機器、調査方法、データ整理について、平成18年度の検討内容をもとに、利用した機器とそれによって得られた研究成果の収集を行った。（平成19年度の利用実績を本報告書の末尾に示す。）
- 2) 学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、6月に「受託試験」を開始した（<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>）。これにより、学外研究機関がセンター教職員立ち会いのもとで正式にセンター内の機器を操作可能になった。
- 3) 共同利用可能な機器についての情報を発信するホームページは構築済みであるが、現在運用している機器利用システムのさらなる改善および共同利用機器の数の増加を図るために、共同利用可能機器についての調査依頼を全学に配布し、その結果に基づいて、共同利用可能機器を増加させた（<http://www.iac.saga-u.ac.jp/temp/instrument/list.htm>）。また、農学部に設置されている多くの機器を、共同利用可能機器として総合分析実験センターホームページで公開を進める準備をしており、総合分析実験センター側での準備を終えた。また、DNAシーケンサーの運用状況がわかるホームページを新たに公開するなど、ホームページの改善も行った（<http://www.iac.saga-u.ac.jp/lifescience/instruments/konzatu.html>）。合わせて、低利用頻度機器、および譲渡希望機器の収納スペースを整備し（リサイクルファシリティ）、譲渡を希望する機器について予め情報を収集しホームページで情報開示するシステムの運用を開始した。
- 4) 本庄地区と鍋島地区で行っている新規および更新の放射性同位元素業務

従事者講習会に関して、どちらか一方を受講すればよいようにした。これにより、鍋島地区の講習会を受講した教員1名、技術専門職員1名、学生1名の計3名を本庄地区の放射線業務従事者として登録した。新規および更新の放射性同位元素業務従事者講習会の実施回数の増加を図り、新規講習会については5月と12月に定期的に行うことに加え、5名以上の希望者がいる場合には随時講習会を開くこととした。実際に2月に5名以上の希望者が出たため、講習会を実施した。更新の講習会に関しては、12月に複数回開くこととし、更新者全員の便宜を図った。

- 5) 総合分析実験センターで行われる教育訓練の際、アンケート調査を随時行い、学生等のニーズを把握した。例えば、本庄地区で開催した放射線業務従事者のための教育訓練でアンケートを実施した。これら調査の問題点を検証し、次の教育訓練でどこを工夫するかについての検討を終えた。
- 6) 平成19年4月より「佐賀大学動物実験安全管理規則」が施行されたことに伴い、学内の「動物実験委員会」と連携し、動物実験を実施する研究者への教育訓練を実施した。また、新しい規則に対応した利用マニュアル、標準操作手順書等を作成し、ホームページで公開した。
- 7) 既に作成済みのマニュアル・手引きについて、更新が必要なものについては随時更新を行なっている。

また、総合分析実験センターを主たる研究の場としている博士課程1年の学生（鹿児島大学大学院連合農学研究科所属）が、本年度から日本学術振興会特別研究員DC1に採用された。

(2) 研究支援の領域

ア 学術・研究活動に関する事項

次のことに取り組んだ。

- 1) 学内外との共同研究を推進
- 2) 学外研究プロジェクトの応募に参画
- 3) 全国レベルのシンポジウムを開催

そのために、医食同源プロジェクトに参画し、生活習慣病の病態モデルとなる遺伝子組換えウサギの開発とそれを用いた分子病理学的研究を行った。また、総合分析実験センターにおいて開発された遺伝子組換えウサギを他の研究機関に分与するとともに共同研究を推進した。平成19年度は、国内4機関に4系統の遺伝子組換えウサギ、合計61匹を分与した。学外研究プロジェクトとしては、文科省のナショナ

ルバイオリソースプロジェクトに応募した一方で、総合分析実験センター専任教員を中心とした部門間連携研究プロジェクトの検討を行うために、各部門共同でセミナーを開催した。

イ 研究支援環境に関する事項

研究支援環境に関して、次のことに取り組んだ。

- 1) アー3) に示すように、共同利用可能機器についての調査結果に基づいて、共同利用可能機器を増加させた。また、機器の運用状況が分かるようにするなど、ホームページの改善を行った。合わせて、低利用頻度機器、および譲渡希望機器の収納スペースを整備し（リサイクルファシリティ）、譲渡を希望する機器について予め情報を収集しホームページで情報開示するシステムの運用を一部始めた。
- 2) 4月1日に環境安全部門を設置し、11月1日着任した本庄地区機器分析部門担当准教授が環境安全部門の業務も担うこととした。環境安全部門の事業として3R(Reduce, Reuse, Recycle)事業（搬出廃液・廃試薬の削減および低使用頻度、および廃棄予定物品のリサイクル、リユース事業）を提案し、本事業の一環である譲渡希望物品の情報収集、および情報開示のシステムの運用を開始した。また、低頻度物品の収納スペース（リサイクルファシリティ）を確保し、運用に向け調整中である。
- 3) 化学系研究設備有効利用ネットワークの概算要求に対して復活再生要求機器リストを提出した。
- 4) 遺伝子組み換え動物作成の受託業務システムの導入に向けて、新たに採用された助教1名が技術習得を開始した。
- 5) 動物実験に関して、研究テーマに即した飼育室・実験室の改善を検討した。特に、遺伝子組換えマウスの飼育スペース拡張を行った。また、動物飼育ラックの地震対策を検討したが、予算不足のため実施には至っていない。
- 6) 必要な動物実験に関する設備や飼育機材の充実のために、可能な限りの努力を行った。しかしながら、近年の研究方法の進歩により、施設の利用形態も以前とは大きく変わってきており、施設・設備の陳腐化や老朽化のため、現状ではこうしたニーズに対応できていない部分が多数見受けられるようになった。そこで、先端的研究を効率よく推進していくため、動物実験施設の全面改修について施設整備概算要求を提案した。
- 7) 学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、6月に「受託試験」を開始した (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。

加えて、大学間の機器の相互利用のために、次のことに取り組んだ。

- 1) 他大学の共同利用可能機器に関する情報を大学内に知らせる。
- 2) 他大学へ総合分析実験センター内の共同利用可能機器に関する情報を発信する。
- 3) 化学系研究設備有効利用ネットワークに協力する。

そのために、これらを実際に公開するためのホームページの更新を図った (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/>の「設備の大学間相互利用」を参照)。あわせて、佐賀大学として化学系研究設備有効活用ネットワークに協力し、共同利用機器を供出した。

また、優れた人材の活用のために次のことに取り組んだ。

- 1) 研究支援者の獲得
- 2) 技術職員の研究への参画を促進

そのために、研究支援者の採用を続けているが、増員には至っていない。

(3) 国際交流・社会貢献の領域

ア 教育における社会連携・貢献に関する事項

該当無し

イ 研究における社会連携・貢献に関する事項

学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築を図るために、以下のことに取り組んだ。

- 1) 6月に「受託試験」を開始した (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。
- 2) 地域に貢献する研究支援活動を行うために、佐賀大学産学連携推進機構を活用し、同機構のホームページからの情報発信に協力した。

ウ その他国際交流・社会貢献に関する事項

ホームページを通じて、開発したベクターDNAを国内外に分与する活動を行っている (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/lifescience/pSU0/>)。

(4) 組織運営の領域

ア 教育研究組織の編成・管理運営に関する事項

本庄地区と鍋島地区のテレビ会議システムを活用して会議を行った。

イ 財務に関する事項

- 1) 自己収入の増加を図ることも一つの目標として、学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、自己収入の増加を図ることも一つの目標として、6月に「受託試験」を開始した(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。
- 2) 遺伝子組換え動物作成受託に向けて試験的運用を実施した。
- 3) 光熱水費削減を目的に動物実験施設の空調設備の運転状況の見直し・変更を実施した。
- 4) 本庄地区 RI 実験施設において、業務委託費の節約を図るため、これまで外注で行っていた作業環境測定を自ら行った。また、保管廃棄されていた有機シンチレータ廃液 150L の焼却処理を自ら行った。

ウ その他組織運営に関する事項

- 1) 鍋島地区の生物資源開発部門の助教 1 名ならびに機器分析部門の准教授 1 名について公募を行った。書類選考、講演会、面接を行い、教育研究支援能力、教育研究能力、教育研究指導能力、国際貢献、地域・社会貢献を含めた総合的な基準により選考を行なった。
- 2) エコアクション 21 の認証取得を目指した取り組みに参画した。

(5) 施設の領域

ア 施設、設備等に関する事項

災害対策マニュアルに関して、以下の活動を行った。

- 1) 総合分析実験センターとしての「災害対策マニュアル」を全学的なマニュアルと整合性をとりながら作成し、災害対策マニュアルについてホームページで公開した (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/saigai.pdf>)。なお、放射線施設に関しては、放射線障害予防規定に「地震等の災害時における措置」について定めている。また、動物実験施設においても独自の「緊急時対応手引き」を作成し、ホームページ上で公開した。
- 2) 消防署による「防火対象物点検報告特例認定申請に伴う検査」による不適正箇所について改善を行なった。

4. センター利用実績

平成19年度 動物実験施設利用実績（利用者数）

登録者数

コード	職種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H20.3.31
170	係長	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
175	主任	7	7	12	6	6	10	11	7	6	7	5	8	92	10
188	技術専門職員	70	75	71	61	70	50	63	77	66	46	54	61	764	16
606	大学院担当教授	13	12	3	4	8	6	15	6	7	13	7	5	99	24
608	大学院担当准教授	98	116	85	96	108	96	65	96	86	107	120	104	1,177	38
609	講師	24	13	31	18	22	19	26	13	49	15	17	15	262	24
611	助教	218	177	152	211	209	184	207	240	348	295	298	281	2,820	107
613	教務員	3	0	1	1	1	2	1	2	1	0	2	0	14	5
723	薬剤師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
801	大学院生	348	366	328	359	364	292	357	254	287	303	279	288	3,825	114
810	研究生	40	70	42	62	68	49	29	26	35	23	25	44	513	30
820	学生	0	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	6	2
901	医員	0	22	2	3	9	3	3	3	1	4	6	2	58	20
950	技能補佐員	185	129	119	114	114	103	121	127	107	106	111	114	1,450	5
951	教室系非常勤	81	96	100	90	107	79	96	93	71	83	99	96	1,091	35
960	その他（貸出・施設）	47	59	36	18	28	51	117	143	30	34	25	35	623	24
	合計	1,134	1,142	982	1,048	1,114	944	1,111	1,088	1,094	1,036	1,048	1,053	12,794	456

身分	延べ入館者数	登録者数
教員、教務員、医員、技術専門職員	5,194	235
研究生、大学院生、学部学生	4,344	146
小計	9,538	381
事務員	92	11
技能補佐員、教室系非常勤職員	2,541	40
小計	2,633	51
合計	12,171	432
業務委託・業者・その他	623	24
総計	12,794	456

平成 19 年度 鍋島地区 R I 実験施設講座等別利用実績

講座等名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
分子生命科学	生化学（出原）		1	1	6			1						9
	生化学（副島）		28	50	28	18	28	20			6		1	179
	免疫・血清学			4	2	4							1	11
	薬理学	12	18	26	22	14	19	27	11	52	8	24	25	258
病因病態科学	病理学（戸田）	2	2			9		7	4		2		7	33
	微生物学	1	18	10	9	2			21	1	1			63
社会医学	地域保健科学（市場）			1							2			3
	地域保健科学（田中）					21	27				2	1	1	52
内科学	肝臓・糖尿病・内分泌	3	18	5										26
	呼吸器		20	23	15	2	1		1					62
	血液		34	26	22				7		4	7	6	106
	先端心臓病学	41	41	38	33	45	29	41	27	28	5	38	47	413
歯科口腔外科												1	1	
総合分析実験センター	本庄地区	4	5	2				2	1					14
計		63	185	186	137	115	104	98	72	81	30	70	89	1230

平成 19 年度 鍋島地区機器分析部門利用実績	
部 屋 名	19 年度各部屋入室 (人)
2 F 製氷機	2, 0 9 9
3 F 製氷機	1 2 5
4 F 製氷機	4 8 6
E L I T E	2, 3 6 5
I B A S	9 3 7
L F R	6, 4 9 6
S E C O M	1 1 8
セミナ(2260)	3 0 3
ダナシス	2, 0 8 2
ピクトロ	1 5 1
マシンショップ	4 6 2
レブコ	8 2 8
院 2F 低温室	2 1 6
管理室	3 4 7
原子吸光	1, 6 5 4
光学的	3 4 0
光学顕微鏡	1, 4 5 8
生化 2 階	2, 0 4 7
走査 1	3 0 0
走査 2	1 9 7
中央滅菌	1, 7 7 2
超遠心	1, 1 0 1
電顕 1	8 1 7
電顕 2	2 1 2
透過 1	4 0 6
透過 2	7 5 7
培養室	1 4 1
標本作成	3 9 3
合 計	2 8, 6 1 0

平成 19 年度本庄地区 R I 実験施設 利用実績

RI 実験室入退室管理システム登録者

教職員 13 名 農学部 11 名

総合分析実験センター 2 名

学生 30 名 農学部 30 名

RI 実験室利用者 (年間のべ数)

905 名

機器利用者

液体シンチレーションカウンタ 51 時間

MALDI-TOF MS 84 時間 (252 サンプル)

X 線照射装置 11 時間

平成 19 年度本庄地区機器分析部門・生物資源利用部門利用実績

機器		平成 19 年度
紫外可視近赤外分光光度計 パーキンエルマー(株) Lambda19	延件数(人) 延時間数 (H)	340 429
電子スピン共鳴装置 (ESR) 日本電子(株) JES-TE300	延件数(人) 延時間数 (H)	139 109
顕微付フーリエ変換赤外分光光度計 パーキンエルマー(株) Spectrum2000	延件数(人) 延時間数 (H)	292 291
粉末 X 線回折装置 理学電気(株) RINT1100	延時間数 (H)	882
4 軸型単結晶自動回折装置 理学電気(株) AFC - 5	延時間数 (H)	8,342
ガスクロマトグラフ質量分析計 日本電子(株) QMS	延件数(人) 延件数(サンプル)	1,184 3,203
超伝導高分解能フーリエ変換核磁気共鳴装置 日本電子(株) JNM-AL300	延件数(人) 延時間数 (H)	6,198 1,949
円偏光二色性分散計 日本分光(株) J-720	延件数(人) 延時間数 (H)	172 402
蛍光光度計 日本分光(株) FP-750	延件数(人)	33
旋光計 日本分光(株) DIP-370	延件数(サンプル)	5
電気泳動光散乱光度計 大塚電子(株) ELS-8000	延時間数 (H)	717
DNAシーケンサー ABI 社 PRISM 310 Genetic Analyzer	延件数(サンプル)	1,716

著書

著者名	書名	タイトル	発行所	発行年	頁から	頁まで
青山貴博, 中塚映政, 古賀秀剛, 藤田亜美, 熊本栄一	第3回人工頭脳工学シンポジウム講演論文集	ラット脊髄運動ニューロンにおける細胞外 ATP による直接的な興奮作用.	佐大 Brain 2006 プロジェクト事務局, 佐賀	2007	34	35
Fujita T, Nakatsuka T, Kumamoto E	Cellular and Molecular Mechanisms for the Modulation of Nociceptive Transmission in the Peripheral and Central Nervous Systems.	Opioid receptor activation in spinal dorsal horn.	Research Signpost, Kerala, India	2007	87	111
藤田亜美, 柳 湧, 中塚映政, 熊本栄一	第3回人工頭脳工学シンポジウム講演論文集	ラット脊髄後角におけるプロテアーゼ受容体活性化は痛み伝達を制御する.	佐大 Brain 2006 プロジェクト事務局, 佐賀	2007	30	31
Kumamoto E, Liu T, Fujita T, Yue H-Y, Nakatsuka T	Cellular and Molecular Mechanisms for the Modulation of Nociceptive Transmission in the Peripheral and Central Nervous Systems.	Role of phospholipase A2 in modulating synaptic transmission in the spinal dorsal horn.	Research Signpost, Kerala, India	2007	113	130
Nakatsuka T, Fujita T, Kumamoto E	Cellular and Molecular Mechanisms for the Modulation of Nociceptive Transmission in the Peripheral and Central Nervous Systems.	P2X receptors and pain sensations.	Research Signpost, Kerala, India	2007	69	86
Tokunaga O, Minhajat R, Mori D	Methods of Cancer Diagnosis, Therapy and Prognosis		Elsevier academic Press	2007	in press	
Shuji Toda, Eisuke Koike, Shigehisa Aoki, Kazuyoshi Uchihashi, Norimasa Koike, and Hajime Sugihara.	Culture System for Studying Thyroid Biology.		International Congress Series 1299, Elsevier.	2007	273	280
杉原甫, 青木茂久, 井手口浩幸, 田端寿美	メタボリック・シンドローム 俊約遺伝子の破綻		国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部紀要	2007	1	12
尾崎岩太, 浜島弘史, 中島麻友美, 張浩, 松橋幸子, 江口有一郎, 安武努, 水田敏彦, 藤本一眞.	14 回浜名湖シンポジウム記録集 消化器発癌における炎症・再生・細胞応答の悪割.	細胞外マトリックス受容体インテグリンを介した肝癌細胞の増殖制御.	アークメディア	2007	46	47

原著論文								
著者名	雑誌名	タイトル	発行者	発行年	巻	号	頁から	頁まで
T. Takamuku, Y. Noguchi, E. Yoshikawa, T. Kawaguchi, M. Matsugami, and T. Otomo	J. Mol. Liquids	Alkali Chlorides-Induced Phase Separation of Acetonitrile-Water Mixtures Studied by Small-Angle Neutron Scattering	Elsevier	2007	131-132		131	138
T. Takamuku, Y. Kyoshoin, H. Noguchi, S. Kusano, and T. Yamaguchi	J. Phys. Chem. B	Liquid Structure of Acetic Acid-Water and Trifluoroacetic Acid-Water Mixtures Studied by Large-Angle X-ray Scattering and NMR	ACS	2007	111		9270	9280
T. Takamuku, Y. Noguchi, M. Matsugami, H. Iwase, T. Otomo, and M. Nagao	J. Mol. Liquids	Heterogeneity of Acetonitrile-Water Mixtures in the Temperature Range 279-307 K Studied by Small-Angle Neutron Scattering Technique	Elsevier	2007	136		147	155
T. Takamuku, Y. Noguchi, M. Nakano, M. Matsugami, H. Iwase, and T. Otomo	J. Ceram. Soc. Japan	Microinhomogeneity for Aqueous Mixtures of Water-miscible Organic Solvents	日本セラミックス協会	2007	115		861	866
K. Koga, Y. Yamada, M. Koikawa, and T. Tokii	J. Coord. Chem.	Syntheses, Structures, and Reactivities of Novel Binuclear Ruthenium (II) Complexes with Bis(m-phosphinato) Bridges		2007	60		143	151
Y. Yamada, M. Noda, M. Inoue, Y. Miyashita, K. Okamoto, M. Koikawa, and T. Tokii	J. Coord. Chem.	Stereospecific Dimerizations through p-Conjugated Systems of Sulfur-Bridged Dinuclear Cobalt(III)-Platinum(II) Complexes of 1,2-Propanediamines		2007	60		607	617
Y. Yamada, M. Inoue, Y. Miyashita, K. Okamoto, M. Koikawa, and T. Tokii	Polyhedron	Effects of Counter Anions on Stereospecific Interactions through p-Conjugated Systems of Sulfur-Bridged Dinuclear Cobalt(III)-Platinum(II) Complexes with Optically Active Penicillamines: Synthetic, Structural, and Spectroscopic Studies		2007	26		2749	2760
M. Muto, N. Hatae, Y. Tamekuni, Y. Yamada, M. Koikawa, and T. Tokii	Eur. J. Inorg. Chem.	Tripodal Trimanganese(III) Complexes of New Unsymmetrical Pentadentate Ligands Derived from 2-(Salicylideneamino)phenol: Syntheses, Crystal Structures and Properties		2007			3701	3709

T. Hanamoto, R. Anno, K. Yamada, and K. Ryu	Tetrahedron Lett.	Facile synthesis of alpha-functionalized vinyl sulfides bearing beta-trifluoromethyl group: a highly potential CF ₃ -containing building blocks	Elsevier	2007	48		3272	3730
T. Hanamoto, T. Suetake, Y. Koga, T. Kawanami, H. Furuno, and J. Inanaga	Tetrahedron	Synthesis and reactions of 5-tributylstannyl-4-fluoro-1H-pyrazole	Elsevier	2007	63		5062	5070
T. Hanamoto, Y. Iwamoto, K. Yamada, and R. Anno	Journal of Fluorine Chemistry	N-Arylation of 4-fluoro-5-trimethylsilyl-1H-pyrazole	Elsevier	2007	128		1126	1130
梅林泰宏, 福田周平, 竹内宗孝, 神崎 亮, 石黒慎一, 藤井健太, 高椋利幸	溶融塩および高温化学	広角 X 線散乱実験および分子動力学計算によるイオン液体の液体構造	電気化学会	2007	50		117	125
M. Takeshita, M. Inoue, H. Hisasue, S. Maekawa, T. Nakamura	J. Phys. Org. Chem.	Synthesis and photochromism of 1,2-dicyano[2.2]metacyclophan-1-ene s		2007	20		830	
M. Takeshita, A. Tanaka, T. Hatanaka	Opt. Mat.	Photoreversible refractive index change of [2.2]metacyclophan-1-ene in PMMA film		2007	27		499	
J. Taira, M. Jelokhani-Niaraki, S. Osada, F. Kato, and H. Kodama	Biochemistry	Ion-channel formation assisted by electrostatic interhelical interaction in covalently dimerized amphiphilic helical peptides		2008	47	12	3705	3714
D. Sugiyama, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki, and H. Kodama	Peptides Science 2007	Synthesis and biological activity of synthetic peptide MMK-1 analogs		2008			269	272
J. Ito, J. Taira, S. Osada, F. Kato, and H. Kodama	Peptides Science 2007	Synthesis and ion conductance of cervinin peptides		2008			277	280
J. Taira, S. Osada, M. Jelokhani-Niaraki, T. Ehara, and H. Kodama	Peptides Science 2007	Enhancement of ion channel formation by electrostatic interaction incorporated in dimeric helical peptide		2008			285	288
N. Inokuchi, K. Isozaki, Y. Tsuda, Y. Okada, S. Osada, T. Nose, T. Costa, and Y. Shimohigashi	Peptides Science 2007	Differential Receptor Recognition by Dmt-Containing Enkephalin Dimers Cross-Linked by Phenylenediamines		2008			303	306
Z. Xia, Y. Tsubokura, M. Hoshi, M. Hanawa, C. Yano, K. Okumura, T.A. Ahmed, T. Anai, et al.	DNA Research	An Integrated High-density Linkage Map of Soybean with RFLP, SSR, STS, and AFLP Markers Using A Single F2 Population	Kazusa DNA Research Institute	2007	14		257	269
Y. Nagano, S. Takao, T. Kudo, E. Iizasa & T. Anai	Plant Cell Reports	Yeast-based recombineering of DNA fragments into plant transformation vectors by one-step transformation	Springer	2007	26	12	2111	2117

Sakuraba H, Yoneda K, Yoshihara K, Satoh K, Kawakami R, Uto Y, Tsuge H, Takahashi K, Hori H, Ohshima T.	Applied and Environmental Microbiology	Sequential aldol condensation catalyzed by hyperthermophilic 2-deoxy-D-ribose-5-phosphate aldolase		2007	73	22	7427	7434
Kawakami R, Sakuraba H, Ohshima T	Journal of Bacteriology	Gene cloning and characterization of the very large NAD-dependent L-glutamate dehydrogenase from the psychrophile <i>Janthinobacterium lividum</i> , isolated from cold soil		2007	189	15	5626	5633
A. Suzuki, H. Hara, T. Kinoue, M. Abe, T. Uchiumi, K. Kucho, S. Higashi, A.M. Hirsch, S. Arima	Journal of Plant Research	Split-root study of autoregulation of nodulation in the model legume <i>Lotus japonicus</i> .		2008	121		245	249
Suriyagoda Lalith, Susumu Arima, Akihiro Suzuki and Hoque M.A.	Plant Production Science	Comparison of growth and yield performance of seventeen water chestnut accessions (<i>Trapa</i> spp.) collected from Asia and Europe		2007	10	3	372	379
Yuichi Deguchi, Mari Banba, Yoshikazu Shimoda, Svetlana A. Chechetka, Ryota Suzuri, Yasuhiro Okusako, Yasuhiro Ooki, Koichi Toyokura, Akihiro Suzuki, Toshiki Uchiumi, Shiro Higashi, Mikiko Abe, Hiroshi Kouchi, Katsura Izui and Shingo Hata	DNA Research	Transcriptome Profiling of <i>Lotus japonicus</i> Roots during Arbuscular Mycorrhiza Development and Comparison with That of Nodulation		2007	14	3	117	133
Yoshiga, T.	Japanese Journal of Nematology	Detection of <i>Halicephalobus gingivalis</i> in soil nematode samples using PCR Japanese Journal of Nematology		2007	37	2	101	104
Kuwata,R.,T.Yoshiga,M.Yoshida,E.Kondo	Japanese Journal of Nematology	Phylogenetic relationships of Japanese Heterorhabditis nematodes and their symbiotic Photorhabdus bacteria		2007	37	2	39	50
Akagami,M.,T.Shibahara,T.Yoshiga,N.Tanaka,Y.Yaguchi,T.Onuki,T.Kondo,T.Yamanaka,M.Kubo	Journal of Veterinary Medical Science	Granulomatous nephritis and meningoencephalomyelitis caused by <i>Halicephalobus gingivalis</i> in a pony gelding		2007	69		1187	1190
Umetsu,Y., Aizawa, T., Muto, K., Yamamoto, H., Kamiya, M., Kumaki, Y., Mizuguchi, M.,	Peptide Science	Effect of C-terminal elongation on the structure and larval growth inhibitory activity of growth blocking peptide		2007			251	254

Hayakawa, Y., Kawano, K.		(GBP)						
Ninomiya, Y., Kurakake, M., Oda, Y., Tsuzuki, S. and Hayakawa, Y.	FEBS J.	Insect cytokine growth-blocking peptide signaling cascades regulate two separate groups of target genes.		2007	275		894	902
Ninomiya, Y. and Hayakawa, Y.	FEBS J.	Insect cytokine, growth-blocking peptide, is a primary regulator of melanin-synthesis enzymes in armyworm larval cuticle.		2007	274		1768	1777
Sasaki K, Soejima H, Higashimoto K, Yatsuki H, Ohashi H, Yakabe S, Joh K, Niikawa N, Mukai T	Eur. J. Hum. Genet.	Japanese and North American/European patients with Beckwith-Wiedemann syndrome have different frequencies of some epigenetic and genetic alterations		2007	15	12	1205	1210
Kanaji S, Tanaka Y, Sakata Y, Takeshita K, Arima K, Ohta S, Hansell EJ, Caffrey C, Mottram JC, Lowther J, Donnelly S, Stack C, Kadowaki T, Yamamoto K, McKerrow JH, Dolton JP, Coombs GH, Izuhara K.	FEBS Lett.	Squamous cell carcinoma antigen 1 is an inhibitor of parasite-derived cysteine proteases.		2007	581	22	4260	4264
Hara H., Ishihara C., Takeuchi A., Imanishi T., Xue L., Morris S. W., et al.	Nat Immunol,	The adaptor protein CARD9 is essential for the activation of myeloid cells through ITAM-associated and Toll-like receptors.		2007	8		619	629
Wang S., Miyazaki Y., Shinozaki Y., & Yoshida H.	J Immunol,	Augmentation of Antigen-Presenting and Th1-Promoting Functions of Dendritic Cells by WSX-1(IL-27R) Deficiency.		2007	179		6421	6428
Bahrn U, Kimoto M, Tsukamoto H, Tsuneyoshi N, Kohara J, Fukudome K	Hybridoma	Preparation and Characterization of Agonistic Monoclonal Antibodies Against Toll-Like Receptor 4-MD-2 Complex.	Mary Ann Liebert, Inc.,	2007	26	6	393	399
Tsukamoto H, Fukudome K, Kohara J, Nakatake H, Kimoto M	Protein Expr Purif.	Preparation of recombinant murine tumor necrosis factor-alpha in Escherichia coli: a rapid method to remove tags from fusion proteins by thrombin-cleavage and ion-exchange chromatography. 2007 56(1):138-44. (1.867)	Academic Press	2007	56	1	138	144

Tsuneyoshi N, Kohara J, Bahrun U, Saitoh S-I, Akashi S, Gauchat J-F, Kimoto M, Fukudome K	Cellular Immunology	Penta-acylated lipopolisaccharide binds to murine MD-2 but does not induce the oligomerization of TLR4 required for signal transduction	Academic Press	2007	244	1	57	64
Shioya T	J. Physiol. Sci.	A simple technique for isolating healthy heart cells from mouse models		2007	57	6	327	335
Yamamoto S, Ichishima K, Ehara T	J. Physiol. Sci.	Regulation of Extracellular UTP-Activated Cl ⁻ Current by P2Y-PLC-PKC Signaling and ATP Hydrolysis in Mouse Ventricular Myocytes.		2007	57	2	85	94
Fujita T, Liu T, Mizuta K, Nakatsuka T, Kumamoto E	J. Func. Diag. Spinal Cord	Proteinase-activated receptor-1 activation presynaptically enhances spontaneous excitatory synaptic transmission in adult rat substantia gelatinosa neurons.		2007	29	1	8	14
Kosugi M, Nakatsuka T, Fujita T, Kuroda Y, Kumamoto E	J. Neurosci.	Activation of TRPA1 channel facilitates excitatory synaptic transmission in substantia gelatinosa neurons of the adult rat spinal cord.		2007	27	16	4443	4451
Kosugi M, Nakatsuka T, Fujita T, Aoyama T, Kumamoto E	J. Func. Diag. Spinal Cord	The effect of TRPA1 activation on excitatory synaptic transmission in the spinal dorsal horn.		2007	29	1	15	20
Liu T, Fujita T, Nakatsuka T, Kumamoto E	Pain Res.	Phospholipase A2 activation enhances inhibitory synaptic transmission in the rat substantia gelatinosa.		2007	22	1	11	18
Kai K, Kitajima Y, Hiraki M, Satoh S, Tanaka M, Nakafusa Y, Tokunaga O, Miyazaki K.	Cancer Lett.	Quantitative double-fluorescence immunohistochemistry (qDFIHC), a novel technology to assess protein expression: a pilot study analyzing 5-FU sensitive markers thymidylate synthase, dihydropyrimidine dehydrogenase and orotate phosphoribosyl transferases in gastric cancer tissue specimens.		2007	258	1	45	54
Kusano K, Tokunaga O, Ando T, Inokuchi A.	Hum Pathol.	Helicobacter pylori in the palatine tonsils of patients with IgA nephropathy compared with those of patients with recurrent pharyngotonsillitis.		2007	38	12	1788	1797

Amemori S, Ootani A, Aoki S, Fujise T, Shimoda R, Kakimoto T, Shiraishi R,	Am J Physiol Gastrointe st Liver Physiol.	Adipocytes and preadipocytes promote the proliferation of colon cancer cells in vitro.		2007	292	3	G923	G929
Matsuda T, Matsumoto A, Uchida M, Kanaly RA, Misaki K, Shibutani S, Kawamoto T, Kitagawa K, Nakayama KI, Tomokuni K, Ichiba M.	Carcinoge nesis	Increased formation of hepatic N2-ethylidene-2'-deoxyguanosine DNA adducts in aldehyde dehydrogenase 2-knockout mice treated with ethanol.		2007	28		2363	2366
Matsumoto A, Ichiba M, Horita M, Yamashita Z, Takahashi T, Isse T, Oyama T, Kawamoto T, Tomokuni K.	Alcohol	Lack of aldehyde dehydrogenase ameliorates oxidative stress induced by single-dose ethanol administration in mouse liver.		2007	41		57	59
Matsumoto A, Kawamoto T, Horita M, Takahashi T, Isse T, Oyama T, Ichiba M.	Alcohol	Single-dose ethanol administration downregulates expression of cytochrome p450 2E1 mRNA in aldehydedehydrogenase 2 knockout mice.		2007	41		587	589
Haruta Y., Koarada S., Tada Y., Mitamura M., Ohta A., Fukuoka M., Hayasi S., Nagasawa K.	Scand. J. Infect. Dis.	High expression of Toll-like receptor 4 on CD14+ monocytes in acute infectious diseases.		2007	39		577	583
Sueoka N. Sato A. Eguchi H. Komiya K. Sakuragi T. Mitsuoka M. Satoh T. Hayashi S. Nakachi K. Sueoka E.	J Cancer Res Clin Oncol	Mutation profile of EGFR gene detected by denaturing high-performance liquid chromatography in Japanese lung cancer patients.		2007	133	2	93	102
Yakushiji Y, Mizuta H, Kurohara K, Onoue H, Okada R, Yoshimura T, Kuroda Y.	Arch Neurol.	Vasculitic neuropathy in a patient with hereditary C1 inhibitor deficiency.		2007	64	5	731	733
Sueoka N, Sato A, Eguchi H, Komiya K, Sakuragi T, Mitsuoka M, Satoh T, Hayashi S, Nakachi K, Sueoka E	J Cancer Res Clin Oncol	Mutation profile of EGFR gene detected by denaturing high-performance liquid chromatography in Japanese lung cancer patients.		2007	133	2	93	102
Amemori S, Ootani A, Aoki S, Fujise T, Shimoda R, Kakimoto T, Shiraishi R, Sakata Y, Tsunada S, Iwakiri R, Fujimoto K.	Am. J. Physiol.	Adipocytes and preadipocytes promote the proliferation of colon cancer cells in vitro.		2007	292		G923	929
Fujise T, Iwakiri R, Kakimoto T, Shiraishi R, Sakata Y, Wu B, Tsunada S, Ootani A, Fujimoto K.	Am J Physiol	Long term feeding of various fat diets modulates azoxymethane-induced colon carcinogenesis through Wnt/ β -catenin signaling in rats.		2007	292		G1150	G1156

Park JM, Kakimoto T, Kuroki T, Shiraishi R, Fujise T, Iwakiri R, Fujimoto K.	Exp Biol Med	Suppression of intestinal mucosal apoptosis by ghrelin in fasted rats.		2007	233		48	56
Matsuhashi S, Narisawa Y, Ozaki I, Mizuta T	Experimental Dermatology	Expression patterns of programmed cell death 4 protein in normal human skin and some representative skin lesions		2007	16		179	184
Ozaki I, Zhang H, Mizuta T, Ide Y, Eguchi Y, Yasutake Y, Sakamaki T, Pestell RG, Yamamoto K	Clin Cancer Res	Menatetrenone, a vitamin K2 analogue, inhibits hepatocellular carcinoma cells by suppressing cyclin D1 expression through the NF- κ B activation inhibition		2007	13		2236	2245
Ken Sato, Yoshihiko Kitajima, Naohiko Kohya, Yasuo Koga, Kazuma Ohtaka, Kohji Miyazaki	Anticancer research	CPT(SN-38) Chemotherapy may be Selectively Applicable to Biliary Tract Cancer with Low hMLH1 Expression		2007	27		865	872
Kyoumi Takarabe, Yukio Okazaki, Shinya Higuchi, Junichi Murayama, Masafumi Natsuaki, Tsuyoshi Itoh	Asian Cardiovasc. Thorac. Ann.	Nicorandil attenuates reperfusion injury after long cardioplegic arrest		2007	15	3	204	209
Koga S, Okazaki Y, Kataoka H, Ikeda K, Furukawa K, Ohtsubo S, Itoh T.	J. Heart. Valve Dis.	Configurations of the mitral valve during off-pump coronary artery bypass grafting: endoscopic and three-dimensional analysis		2007	16	6	602	607
金子新, 佐藤勇司, 藤山千里, 徳田雄治, 有働和馬, 魚住二郎	西日泌尿	コラーゲンゲル三次元混合培養による前立腺癌細胞に対する脂肪細胞の影響の検討.		2007	69	4	171	175
Zhang Z, Joh K, Yatsuki H, Zhao W, Soejima H, Higashimoto K, Noguchi M, Yokoyama M, Iwasaka T, Mukai T	CANCER Letters	Retinoic acid receptor β 2 is epigenetically silenced either by DNA methylation or repressive histone modifications at the promoter in cervical cancer cells.		2007	247		318	327
下村由起子・平田憲・沖波聡	眼臨	プラスミン注入後の空気タンポナーデによる実験的後部硝子体剥離作製		2007	101		853	855
Murabayashi H, Kuramoto H, Kawano H, Sasaki M, Kitamura N, Miyakawa K, Tanaka K, Oomori Y	Arch. Histol. Cytol.	Immunohistochemical features of substance P-immunoreactive chromaffin cells and nerve fibers in the rat adrenal gland		2007	70		183	196
Kitajima S., Jin Y., Koike T., Yu Y., Liu E., Morimoto M., Shiomi M., Marcovina S., Watanabe N., Fan J.	Atherosclerosis	Lp(a) enhances coronary atherosclerosis in transgenic Watanabe heritable hyperlipidemic rabbits		2007	193		269	276

Liu E., Kitajima, S, Wiese E., Reifenberg K., Morimoto M., Watanabe T., Fan J.	Exp. Anim.	Re-establishment of Complement C6-deficient Rabbit Colony by Cryopreserved Sperm Transported from Abroad		2007	55		167	171
Liu E., Morimoto M., Kitajima S., Yu Y., Koike T., Shiiki H., Nagata M., Watanabe T., Fan J.	J. Am. Soc. Nephrol.	Increased expression of vascular endothelial growth factor in kidney leads to progressive impairment of glomerular functions		2007	18		2094	2104
Nitto T, Takeda Y, Yoshitake H, Sendo F, Araki Y.	Biochem. Biophys. Res. Comm.	Structural divergence of GPI-80 in activated human neutrophils.		2007	359		227	223
Gai X, Oogushi K, Hirahara K, Nagashima F, Taki K.	Current Topics in Pharmacology	Acceleration of cell growth with low intracellular pH by acetazolamide, without change in intracellular Ca ²⁺ .		2007	10	2	13	21
H. Kubo, K. Zenmyo, M. Tokita, T. Hamasaki, M. Hagihara, X.G. Zheng	J. Phys. Soc. Japan	NMR study of spin state in geometrically frustrated compound Co ₂ Cl(OH) ₃		2008	77	1	01370 4-1	01370 4-4
X.G. Zheng, M. Hagihara, T. Kawae, C.N. Xu	Phys. Rev.	Defect-induced low-temperature transition from a spin-ice related state in hydroxychloride Co ₂ (OH) ₃ Cl		2008	77		02441 8-1	02441 8-5
X.G. Zheng, M. Hagihara and T. Toriyi	J. Magn. Magn. Mater.	Co-existence of long range order and spin fluctuation in a new geometric frustration series M ₂ Cl(OH) ₃		2007	310		1288	1290
M. Hagihara, X.G. Zheng, T. Toriyi and T. Kawae	Journal of Physics, Condensed Matter.	Antiferromagnetism and geometric frustration in tetrahedral lattice hydroxyhalides M ₂ (OH) ₃ X		2007	19		14528 1-1	14528 1-8
Makoto Maki*, Shun-ichi Nakao, Koh-ichi Machida, Masashi Shiraishi, Xu-Guang Zheng, Tomoyuki Naito1**, and Hideo Iwasaki1	Journal of the Physical Society of Japan	Dielectric Properties and Carrier Dynamics in Bi ₂ Sr ₂ YCu ₂ O _{8+δ}		2007	76	4	04471 1-1	04471 1-6
T. Kida, T. Oka, M. Nagano, Y. Ishiwata, X.G. Zheng	J. American Ceramic Society	Synthesis and application of stable copper oxide nanoparticle suspensions for nanoparticulate film fabrication		2007	90		107	110

総説								
著者名	雑誌名	タイトル	発行 者	発行 年	巻	号	頁か ら	頁ま で
久木田明子	骨・関節・靭帯	【骨免疫学は偶然か必然か】OCZF/LRFとそのホモログの破骨細胞とリンパ球における機能		2007	20	8	771	779
金子新, 藤山千里, 魚住二郎	臨床泌尿器科	肥満と前立腺癌		2007	61	9	671	678
北嶋修司, 詫広茂 信, 友田清光, 森本 正敏	九州実験動物雑誌	ヒト疾患モデルとしての遺伝子組換えウサギの開発とその系統保存		2007	23		31	45
鄭 旭光	NEWS LETTER 科研 費特定領域研究「フラ ストレーションが創る新 しい物性」	新幾何学的フラストレーション物質系列 M2(OH)3X の磁性		2008	2		28	29

学会発表など				
発表者	会議等名	タイトル	開催地	開催年
高椋利幸	ミニシンポジウム「フッ素が絡んだ分子集合の科学」	フッ素系溶媒と水との混合溶液がつくりだす溶媒と環境	つくば	2008
高椋利幸	平成 19 年度第 5 回九州地区ナノテクノロジー拠点ネットワーク講演会	溶液中におけるナノスケールの分子会合	佐賀	2007
高椋利幸	九州大学 Material Explore ユーザー会	有機溶媒-水混合溶液におけるクラスター形成の観測	福岡	2007
T. Takamuku	第 4 回九州溶液化学懇談会	Solvation Field Provided by Alcohol-Water Mixtures	福岡	2007
花本猛士	IMCE-Hakozaki Seminar 2008	フルオロアセチレン化合物の合成と反応	福岡	2008
花本猛士	福岡シンポジウム第 1 回若手交流合宿セミナー	フルオロアルキンの合成と反応	福岡	2007
花本猛士	Japanese-French Seminar on Fluorine Chemistry	Synthetic Applications of Fluoroacetylene Derivatives	Reims (France)	2007
竹下道範	第44回化学関連支部合同九州大会	光スイッチを持った水素結合性超分子化合物の合成と物性	北九州	2007
M. Takeshita	Post ISNA-12 Symposium on Physical Organic Chemistry	Non-destructive Read-out of Photochromic Reaction of [2.n]Metacyclophan-1-enes	福岡	2007
長田 聡史	有機合成化学講演会	含フッ素アミノ酸側鎖メテリック分子による細胞機能制御	大分大学 (大分)	2007
藤井健太, 福田周平, 高椋利幸, 神崎亮, 梅林泰宏, 石黒慎一	電気化学会第 75 回大会	広角 X 線散乱実験および MD シミュレーションによるイオン液体, 1-ethyl-3-methylimidazolium bis-(trifluoromethanesulfonyl) imide の液体構造解析	甲府	2008
高椋利幸, 本田裕介, 教正院康裕, 藤井健太, 橘高茂治, 山口敏男	中性子科学会第 7 回年会	X 線及び中性子散乱でみるイオン液体と分子性液体の混合	福岡	2007
Y. Umebayashi, S. Fukuda, M. Takeuchi, R. Kanzaki, K. Fujii, T. Takamuku, and S. Ishiguro	Joint Conference of JMLG/EMLG Meeting 2007 and 30th Symposium on Solution Chemistry of Japan	Theoretical and Experimental Studies on the Structures of Ionic Liquids Composed of 1-Ethyl-3-methylimidazolium	Fukuoka	2007

T. Takamuku, M. Tanaka, T. Sako, K. Fujii, and M. Takeuchi	Joint Conference of JMLG/EMLG Meeting 2007 and 30th Symposium on Solution Chemistry of Japan	Solvation Behavior of Diol Molecule in Alcohol-Water Mixtures,	Fukuoka	2007
Y. Umebayashi, S. Fukuda, M. Takeuchi, R. Kanzaki, K. Fujii, T. Takamuku, and S. Ishiguro	2nd International Congress on Ionic Liquids	Molecular and Liquid Structures of 1-Ethyl-3-methylimidazolium Ionic Liquids with Various Anions	Yokohama	2007
T. Takamuku, Y. Kyoshoin, K. Fujii, S. Kittaka, and T. Yamaguchi,	2nd International Congress on Ionic Liquids	Behavior of Water Molecules Absorbed in Imidazolium Ionic Liquids	Yokohama	2007 8
M. Tabata, M. Baba, E. Goto, and T. Takamuku	30th International Conference on Solution Chemistry	Solvent Composition Effects on Relaxation of Bulk Water Molecules and on Water Molecule Exchange Reaction of Aquanickel(II) in Aqueous Mixed Solvents with Propanol or 1-Propanol	Perth, Australia	2007
T. Takamuku, K. Fujii, R. Kanzaki, Y. Umebayashi, S. Ishiguro, and T. Yamaguchi,	30th International Conference on Solution Chemistry	X-ray Diffraction Study on Structure of Imidazolium Ionic Liquids	Perth, Australia	2007
兒玉宏樹	日本腐植物質学会講演会	針葉樹林及び広葉樹林渓流水からのフルボ酸の特性比較		2007
F. Ochi, Y. Yamada, M. Koikawa, and T. Tokii	1st Asian Conference on Coordination Chemistry	Syntheses, Structures, and Magnetic Properties of Mono-, Bis-, and Tris- <i>m</i> -Phosphinato- Bridged Dinuclear Copper(II) Complexes	岡崎	2007
三好祐輔, 竹之内真一, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	第57回錯体化学討論会	光学活性六座配位子を含む希土類錯体の合成と性質	名古屋	2007
高尾俊郎, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	第57回錯体化学討論会	ビス(<i>m</i> -カルボキシラト)二核銅(II)錯体の架橋空間修飾による磁気特性制御	名古屋	2007
宮原孝裕, 西 竜太郎, 鯉川雅之, 山田泰教, 時井直	第57回錯体化学討論会	非対称型キレート配位子による新規鉄(III)錯体の合成と反応性	名古屋	2007
江崎立, 鯉川雅之, 山田泰教, 時井直	第57回錯体化学討論会	オキサゾリン型配位子によるマンガン(III)錯体の合成と触媒反応	名古屋	2007
越智史人, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	第57回錯体化学討論会	ホスフィナト単架橋および多重架橋を有する二核銅(II)錯体の合成と磁氣的性質	名古屋	2007
豊福 崇, 鯉川雅之, 山田泰教, 時井直	第57回錯体化学討論会	錯体配位子を用いたヘテロ金属錯体の合成と性質	名古屋	2007
武藤尚征, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	第57回錯体化学討論会	ホスフィナト三重架橋三核鉄(III)錯体の合成と性質	名古屋	2007
越智史人, 向井 洋, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	2007年日本化学会西日本大会	syn-syn型ホスフィナト架橋を含む二重架橋銅(II)錯体の合成と性質	岡山	2007
安永龍生, 津田一知, 三好祐輔, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	2007年日本化学会西日本大会	光学活性な六座配位子を含む希土類錯体の構造と性質	岡山	2007
河野みゆき, 三好祐輔, 山田泰教, 鯉川雅之, 時井直	2007年日本化学会西日本大会	芳香環を含む光学活性硫黄架橋二核錯体の立体特異的集積化	岡山	2007

案野涼子、山田憲侍、龍浩介、花本猛士	第31回フッ素化学討論会	β -トリフルオロメチルビニルスルフィドの α 位置置換反応	弘前	2007
山田憲侍、案野涼子、龍浩介、花本猛士	第31回フッ素化学討論会	α -置換- β -トリフルオロメチルビニルスルフィドの反応	弘前	2007
山田憲侍、岩本裕子案野涼子、花本猛士	第44回化学関連合同九州大会	4-フルオロ-5-トリメチルシリルピラゾールのN-アリアル化反応	北九州	2007
案野涼子、山田憲侍、龍浩介、花本猛士	第44回化学関連合同九州大会	β -(トリフルオロメチル)ビニルスルフィドの α 位置置換反応	北九州	2007
竹下道範、田中千奈津、横山真吾	日本化学会第88春季年会	ポリマー中におけるチオフェン-1-エン類のフォトクロミズム	東京	2007
T. Nakamura, T. Koga, S. Maekawa, M. Takeshita	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Synthesis and Photochromic Properties of [2.2]Metacyclophan-1-ene (1)	佐賀	2007
T. Koga, T. Nakamura, S. Maekawa, M. Takeshita	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Synthesis and Photochromic Properties of [2.2]Metacyclophan-1-ene (2)	佐賀	2008
T. Miyazaki, M. Hayashi, M. Takeshita	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Photoreversible Formation of Supramolecular Polymer Containing Diarylethene Photoswitch	佐賀	2008
竹下道範、田中千奈津、横山真吾、古賀健	第1回有機フォトクロミズムシンポジウム	ポリマー中におけるシクロファン-1-エン類のフォトクロミズム	東京	2007
M. Takeshita	7th International Symposium on Photochromism	Synthesis and Photochromic Properties of [2.n]thiophenophan-1-enes	バンクーバー(カナダ)	2007
C. Tanaka, M. Takeshita	Post ISNA-12 Symposium on Physical Organic Chemistry	Synthesis and Photochromic Properties of Polyoxa[2.n]thiophenophan-1-enes	福岡	2007
T. Nakamura, T. Koga, S. Maekawa, M. Takeshita	Post ISNA-12 Symposium on Physical Organic Chemistry	Synthesis and Photochromic Properties of [2.2]Metacyclophan-1-ene (1)	福岡	2007
T. Koga, T. Nakamura, S. Maekawa, M. Takeshita	Post ISNA-12 Symposium on Physical Organic Chemistry	Synthesis and Photochromic Properties of [2.2]Metacyclophan-1-ene (2)	福岡	2007
T. Miyazaki, M. Hayashi, M. Takeshita	Post ISNA-12 Symposium on Physical Organic Chemistry	Photoreversible Formation of Supramolecular Polymer Containing Diarylethene Photoswitch	福岡	2007
岩永賢彦、竹下道範	第44回化学関連支部合同九州大会	光スイッチを持ったアミノ酸レセプターの開発	北九州	2007
南里武、竹下道範	第44回化学関連支部合同九州大会	フォトクロミックカリックスアレーン誘導体の合成と光化学的包接挙動	北九州	2007

横山真吾、竹下道範	第44回化学関連支部 合同九州大会	フォトクロミックチオフェノファン-1-エン類の合成と フォトクロミズム	北九州	2007
宮崎貴志、竹下道範	第44回化学関連支部 合同九州大会	水素結合性超分子ポリマーの光スイッチ	北九州	2007
中村武史、竹下道範	第44回化学関連支部 合同九州大会	[2.2]メタシクロファン-1-エン誘導体のフォトクロミ ズム	北九州	2007
田中千奈津、竹下道範	第44回化学関連支部 合同九州大会	ポリエーテル鎖を持つチエニルエテノファンの合成 と金属イオン添加によるフォトクロミック挙動	北九州	2007
佐野 聡, 長田聰史, 兒玉浩明, 上山真理子, 中馬吉郎, 坂口和靖	日本化学会第 88 春季 年会	非加水分解性アミドミミックを組み込んだ HDAC 阻 害剤	立教大学 (東京)	2007
伊東純子, 平 順一, 長田聰史, 加藤富民雄, 兒玉浩明	日本化学会第 88 春季 年会	短鎖ペプチド cerivin アナログの合成と 脂質膜との相互作用	立教大学 (東京)	2007
杉山大輔, 柴田大介, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	日本化学会第 88 春季 年会	GPCR 型受容体の膜貫通ペプチドの合成と好中球 活性化	立教大学 (東京)	2007
柴田大介, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	日本化学会第 88 春季 年会	二量化 FPR アンタゴニストの合成とヒト好中球へ の作用	立教大学 (東京)	2007
鶴田知子, 長田聰史, 前田衣織, 岡元孝二, 兒玉浩明	日本化学会第 88 春季 年会	多量体トロポエラスチンモデルペプチドと生体二価 イオンとの相互作用	立教大学 (東京)	2007
兒玉浩明, 小内美佳, 杉山大輔, 柴田大介, 長田聰史, 大庭英樹	第 10 回連携大学院産 学官交流セミナー	海洋性環状ペプチドの生理活性の探索	産業技術総 合研究所九 州センター (佐賀)	2007
佐野 聡, 杉山大輔, 長田聰史, 大庭英樹, 兒玉浩明	第 10 回連携大学院産 学官交流セミナー	細胞内還元力を利用するハイブリッド阻害剤の合 成	産業技術総 合研究所九 州センター (佐賀)	2007
D. Sugiyama, D. Shibata, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki, H. Kodama	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Synthesis and biological activity of transmembrane peptides derived from membrane proteins	佐賀大学 (佐賀)	2007
M. Onai, D. Sugiyama, D. Shibata, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki, H. Kodama	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Synthesis and biological activities of natural cyclic peptides	佐賀大学 (佐賀)	2007
S. Sano, D. Sugiyama, S. Osada, H. Kodama	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Synthesis of HDAC-FTase hybrid inhibitors and their HL60 cell growth-inhibitory activity	佐賀大学 (佐賀)	2007
平 順一, 長田聰史, M. Jelokhani-Niaraki, 頼原嗣尚, 兒玉 浩明	第 30 回日本分子生物 学会年会・第 80 回日本 生化学会大会・合同大 会	両親媒性ヘリックスダイマーの脂質膜への集積と イオン透過ポア形成	パシフィコ横 浜(神奈川)	2007
杉山大輔, 林 良, 長田聰史, 浜 崎雄平, 藤田一郎, 兒玉浩明	第 4 回武田科学振興財 団薬科学シンポジウム	Effects of subtype selective agonists for primed neutrophils by FPR transmembrane peptides	シェラトン都 ホテル東京 (東京)	2007

平 順一, 長田聰史, M. Jelokhani-Niaraki, 加藤富民雄, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	会合様式の異なる両親媒性ヘリックスペプチドの 抗菌活性と作用機構	岡山大学 (岡山)	2007
今村聡子, 平 順一, 長田聰史, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	疎水性相互作用を期待した環状ペプチドのイオン チャンネル活性	岡山大学 (岡山)	2007
伊東純子, 平 順一, 長田聰史, 加藤富民雄, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	on-line dimer 型イオンチャンネル形成ペプチド cervinin の合成と生理活性	岡山大学 (岡山)	2007
菅 虎雄, 今村聡子, 平 順一, 長 田聰史, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	カチオン性異常アミノ酸を導入した環状テトラペプ チドの合成と性質	岡山大学 (岡山)	2007
鶴田知子, 長田聰史, 前田衣織, 岡元孝二, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	化学架橋したトロポエラスチンモデルペプチドの合 成と性質	岡山大学 (岡山)	2007
佐野 聡, 長田聰史, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	チオール基修飾による HDAC-FTase ハイブリッド 阻害剤の合成研究	岡山大学 (岡山)	2007
小内美佳, 志岐康弘, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	新規エラスターゼ阻害剤としての天然環状ペプチ ドの構造と好中球との相互作用	岡山大学 (岡山)	2007
柴田大介, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	ホルミルペプチド受容体選択的アンタゴニストの二 量化と生物活性	岡山大学 (岡山)	2007
杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	ホルミルペプチド受容体選択的リガンドを用いた 好中球プライミングの検討	岡山大学 (岡山)	2007
平河雄喜, 柴田大介, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	サブタイプ選択的 fMLP アンタゴニストの合成と好 中球への影響	岡山大学 (岡山)	2007
佐藤桃子, 柴田大介, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	2007 年日本化学会西 日本大会	fMLP アンタゴニスト BocMLF における N 端保護基 の生理活性への影響	岡山大学 (岡山)	2007
伊東純子, 平 順一, 長田聰史, 加藤富民雄, 兒玉浩明	第 44 回ペプチド討論会	Cervinin ペプチドの合成とイオン透過機構	富山国際会 議場(富山)	2007
平 順一, 長田聰史, M. Jelokhani-Niaraki, 穎原嗣尚, 兒玉 浩明	第 44 回ペプチド討論会	ヘリックス二量体ペプチド中への静電相互作用の 導入によるイオンチャンネル形成の促進	富山国際会 議場(富山)	2007
杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	第 44 回ペプチド討論会	合成ペプチド MMK-1 アナログの合成と生物活性	富山国際会 議場(富山)	2007
平 順一, 長田聰史, M. Jelokhani-Niaraki, 加藤富民雄, 兒 玉浩明	第 44 回化学関連支部 合同九州大会	両親媒性二量化ペプチドの膜摂動活性の系統的 解析	北九州国際 会議場(北 九州)	2007
伊東純子, 平 順一, 長田聰史, 加藤富民雄, 兒玉浩明	第 44 回化学関連支部 合同九州大会	短鎖ペプチド類の合成と脂質膜との相互作用	北九州国際 会議場(北 九州)	2007
今村聡子, 平 順一, 長田聰史, 兒玉浩明	第 44 回化学関連支部 合同九州大会	イオンチャンネル形成を目的とした環状テトラおよ びオクタペプチドの合成	北九州国際 会議場(北 九州)	2007
杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	第 44 回化学関連支部 合同九州大会	FPR 膜貫通ペプチドの HL-60 への作用	北九州国際 会議場(北 九州)	2007

柴田大介, 杉山大輔, 林 良, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	第 44 回化学関連支部合同九州大会	脱感作を利用したホルミルペプチドアンタゴニストのサブタイプ選択性の評価	北九州国際会議場(北九州)	2007
小内美佳, 志岐康弘, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	第 44 回化学関連支部合同九州大会	海綿由来環状ペプチド Hymenamamide 類の合成と生物活性	北九州国際会議場(北九州)	2007
鶴田知子, 長田聰史, 兒玉浩明, 前田衣織, 岡元孝二	第 44 回化学関連支部合同九州大会	架橋領域を持つトロポエラスチンモデルペプチドの合成と疎水場形成評価	北九州国際会議場(北九州)	2007
佐野 聡, 大仁田淳, 池上実佐, 長田聰史, 兒玉浩明	第 44 回化学関連支部合同九州大会	チオール基修飾による新規 FTase 阻害剤の合成研究	北九州国際会議場(北九州)	2007
J. Taira, S. Imamura, S. Osada, M. Jelokhani-Niaraki, T. Ehara, H. Kodama	20th American Peptide Society Symposium	Conformational effects of cyclic hexapeptides for ion channel properties	Palais des congrès de Montreal (Montreal)	2007
J. Taira, S. Osada, M. Jelokhani-Niaraki, T. Ehara, H. Kodama	20th American Peptide Society Symposium	Ion channel formation of dimeric peptide enhanced by electrostatic interaction	Palais des congrès de Montreal (Montreal)	2007
D. Sugiyama, R. Hayashi, S. Osada, Y. Hamasaki, I. Fujita, H. Kodama	20th American Peptide Society Symposium	Synthesis and biological activity of transmembrane peptides derived from FPR family receptors	Palais des congrès de Montreal (Montreal)	2007
Y. Shiki, M. Onai, D. Sugiyama, S. Osada, I. Fujita, H. Kodama	20th American Peptide Society Symposium	Synthesis and biological activity of cyclic peptide, hymenamamide analogs	Palais des congrès de Montreal (Montreal)	2007
平順一, 長田聰史, 加藤富民雄, 兒玉浩明	平成 19 年度日本生化学会九州支部例会	ヘリックス二量体ペプチドの会合状態変化による膜摂動活性への影響	宮崎県立図書館(宮崎)	2007
杉山大輔, 林 良, 柴田大介, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	平成 19 年度有明海総合研究プロジェクト成果報告会	高度活性化物質探索を目的としたプライミング好中球の調製	佐賀大学(佐賀)	2007
杉山大輔, 林 良, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	日本ケミカルバイオロジー研究会第 2 回年会	ホルミルペプチド受容体由来の膜貫通部位ペプチドによる好中球作用の調節	京都大学(京都)	2007
穴井豊昭, 小栗康臣	日本育種学会第 1128 回講演会	日本産在来品種中に見出された高オレイン酸ダイズ遺伝資源の解析		2007
秀島瑠満子, 佐藤奈々絵, 松元美紀, 池田勝志, 穴井豊昭	日本育種学会第 1128 回講演会	X-線照射によるダイズ突然変異体ライブラリーの開発		2007

今井奈保子、秀島瑠満子、穴井豊昭	日本育種学会第 1128 回講演会	組換え型 CEL1 エンドヌクレアーゼの発現		2007
池田まゆみ、今井奈保子、後藤有華、吉富淑玲、松本亮司、駒井史訓、穴井豊昭	平成 19 年度九州育種談話会	「むらゆたか」の X-線照射集団から得られた高ステアリン酸ダイズ突然変異系統		2007
秀島瑠満子、佐藤奈々絵、松元美紀、池田勝志、穴井豊昭	平成 19 年度九州育種談話会	X-線照射によるダイズ突然変異体ライブラリーの開発		2007
今井奈保子、秀島瑠満子、穴井豊昭	平成 19 年度九州育種談話会	組換え型 CEL1 エンドヌクレアーゼの発現		2007
井手一郎、原田哲郎、松本亮司、永野幸生	平成 19 年度日本生化学会九州支部例会	酵母多遺伝子発現ベクターの開発とその活用	宮崎	2007
井手一郎、原田哲郎、松本亮司、永野幸生	2007 年度日本農芸化学会中四国・西日本支部合同大会	ナリンゲニンを合成する酵母の開発とそれに適した酵母株の選抜	山口	2007
武藤さやか	第31回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	Arabidopsis LPS-binding proteins (AtLBP) と大腸菌由来リポ多糖の特異的結合解析	大分	2007
井手一郎	第31回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	酵母相同組換え法を用いた酵母多遺伝子発現ベクターの構築とそれを応用した植物二次代謝産物ナリンゲニンの合成	大分	2007
飯笹英一	第31回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	BRI1 受容体細胞外ドメインの発現系の開発及び生化学的性質の解析	大分	2007
Sayaka Muto, Yukio Nagano	2nd Asian Symposium on Plant Lipids	Characterization of Arabidopsis lipopolysaccharide-binding proteins (AtLBP)	東京	2007
Ei'ichi Iizasa	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Highly efficient yeast-based in vivo DNA cloning of multiple DNA fragments	佐賀	2007
Sayaka Muto, Yukio Nagano	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Characterization of Arabidopsis lipopolysaccharide-binding proteins (AtLBPs)	佐賀	2007
武藤さやか、永野幸生	第 49 回日本植物生理学会年会	自然免疫機構におけるシロイヌナズナ LBP (AtLBP) の機能解析	札幌	2007
永野幸生、飯笹英一	日本農芸化学会 2008 年度大会	酵母を用いたロイシンリッチリピート受容体様キナーゼの発現系の検討	名古屋	2007
吉田 莉菜子	第 40 回若手ペプチド夏の勉強会	Simple and Effective Optimization Method for Gradients in RP-HPLC separation of Peptides	函館	2007
永尾晃治	独立行政法人科学技術振興機構産学連携推進事業本部主催「健康・長寿関連新技術説明会」	メタボリックシンドロームを予防・改善する機能性食品の開発	名古屋	2007

永尾晃治	第1回佐賀大学ビジネスコミュニティーネットワーク	メタボリックシンドロームを予防する食品成分の発見	佐賀	2007
Nao Inoue, Koji Nagao, Toshiro Matsui, Toshihiro Nakamori, Hitoshi Furuta, Kiyoharu Takamatsu, Teruyoshi Yanagita	98th American oil chemist' society annual meeting & expo	Screening of soy protein-derived hypolipidemic peptides using in vitro and in vivo system.	Quebec (Canada)	2007
Ryushi Kawakami	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Function and structure of dye-linked L-proline dehydrogenases from anaerobic hyperthermophilic archaea	佐賀	2007
早川洋一	蛋白質科学会の公募シンポジウム	昆虫の新規サイトカインによる生体防御	仙台	2007
河野敬一	the International Workshop on Perspectives on Stable Isotope Aided NMR Methods for Protein Structural Analysis	Solution structure of a novel cytokine from the larval integument of the armyworm, <i>Pseudaletia separata</i>	大阪	2007
Akiyoshi Tominaga, Ayaka Yamauchi, Toshiki Uchiumi, Mikiko Abe, Ken-ichi Kucho, Shiro Higashi, Masatsugu Hashiguchi, Ryo Akashi, Shusei Sato, Takakazu Kaneko, Satoshi Tabata, Susumu Arima, Toyoaki Anai and Akihiro Suzuki	The 1st Saga University and Daegu University Joint Seminar	Characterization of enf (enhanced nitrogen fixation) mutants of <i>Lotus japonicus</i>	佐賀	2008
早川洋一	日本応用動物昆虫学会学大会	昆虫外皮から単離した新規サイトカインの生理機能	宇都宮	2007
河野剛	日本応用動物昆虫学会学大会	ショウジョウバエ幼虫におけるストレス応答の分子機構	宇都宮	2007
龍田勝輔	日本応用動物昆虫学会学大会	ショウジョウバエ幼虫の摂食・摂食行動に関わる未知遺伝子の探索	宇都宮	2007
淵田直樹、有田沙織、本島浩之、渡邊啓一	日本農芸化学会大会	Subtilisin Carlsberg の Pro 残基の Gly 残基への置換が活性と安定性に及ぼす影響	名古屋	2008
生田淳也、足立一紗、本島浩之、渡邊啓一	日本農芸化学会大会	好冷細菌及び大腸菌由来ピルビン酸キナーゼのアロステリックな性質と構造の関係	名古屋	2008
生田淳也	第31回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	好冷細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 と大腸菌由来ピルビン酸キナーゼのアロステリックな性質の違いと構造の関係についての研究	湯布院	2007
Md. Abul Kashem Tang、岩崎翔平、田上潤、本島浩之、渡邊啓一	日本農芸化学会中四国・西日本支部合同大会	Structural and functional characterizations of acetate kinases from <i>E. coli</i> and psychrotrophic <i>Shewanella</i> species	山口	2007

K. Watanabe, D. Dong, T. Kubori, N. Fuchita, S. Arita, J. Ikuta, H. Motoshima	The 21st Symposium of The Protein Society	Crystal Structure of Psychrophilic Subtilisin-Like Protease with an Insert Domain Provides New Insights into Structural Basis of Cold-Adaptation	Boston, USA	2007
生田淳也、本島浩之、渡邊啓一	日本生化学会平成19年度九州支部例会	好冷細菌 Pseudoalteromonas sp. AS-131 と大腸菌由来ピルビン酸キナーゼのアロステリックな性質の比較	宮崎	2007
Soejima H, Yakabe S, Yatsuki H, Joh K, Miyazaki K, Mukai T	The American Society of Human Genetics 57th Annual Meeting	Multi-faceted gene silencing mechanism of MeCP2.	San Diego, California, USA	2007
霜川修, 夫 律子, 副島英伸, 佐々木健作, 近藤達郎, 松本直通, 吉浦孝一郎, 新川詔夫, 原田直樹	日本人類遺伝学会第52回大会	母由来重複に起因する 11p15 部分トリソミーの1例	東京	2007
副島英伸, 矢ヶ部伸也, 八木ひとみ, 城圭一郎, 宮崎耕治, 向井常博	第1回エピジェネティクス研究会年会	MeCP2 による遺伝子発現抑制機構の多面性	大阪	2007
副島英伸, 矢ヶ部伸也, 八木ひとみ, 城圭一郎, 宮崎耕治, 向井常博	日本人類遺伝学会第52回大会	MeCP2 による多面的遺伝子発現抑制機構	東京	2007
副島英伸, 矢ヶ部伸也, 八木ひとみ, 城圭一郎, 宮崎耕治, 向井常博	第30回日本分子生物学会年会, 第80回日本生化学会大会合同大会 BMB2007	MeCP2 による多面的遺伝子発現抑制機構.	横浜	2007
矢ヶ部伸也, 副島英伸, 向井常博	第66回日本癌学会学術総会	MeCP2 による多面的遺伝子発現抑制	横浜	2007
副島英伸	第31回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	がん細胞におけるエピジェネティックな遺伝子発現抑制機構	由布院	2007
Hara H., Ishihara C., Takeuchi A., Norris S., Penninger J., Saito T.	Keystone symposia	Card9 is essential for myeloid cell activation through ITAM-bearing receptors	Keystone.U SA	2007
Hara H., Ishihara C., Takeuchi A., Norris S., Penninger J., Yoshida H., Saito T.	13th International congress of Immunolog	Differential requirement of Carma1 and CARD9 for FcRg/DAP12-mediated activation og NF-kB in NK cells and myeloid cells	Rio.Brazil	2007
Yoshida H.	BIT's 5th Annual Congress of International Drug Discovery Science and Technology (IDDST)	IL-27 signaling as a target for autoimmune disease treatment	Xi'an, China	2007
Yoshida H., Wang S., Iwakura Y., Miyazaki Y.	Immunology 2007 (The American Association of Immunologists)	Interleuking-17 plays a role in successful resolution of Trypanosoma cruzi infection.	Miami USA	2007
Yoshida H., Shimano Y., Wang S., Iwakura Y., Miyazaki Y.	15th Annual Meeting of the International Cytokine Society	Interleukin-17 is required for protection against trypanosoma cruzi through induction of inflammatory responses	San Francisco, USA	2007

Yoshida H., Shimanoe Y., Wang S. Hamano S., Iwakura Y., Miyazaki Y.	The 7th Awaji International Forum on Infection and Immunity	Interleukin 17 is necessary for host protection against acute phase Trypanosoma cruzi infection	Hyogo, Japan	2007
原博満, 石原千歳, 竹内新, 今西 貴之, 吉田裕樹, and 斎藤隆	日本インターフェロン・ サイトカイン学会	CARD9 と CARD11 による ITAM 関連受容体を介し たサイトカイン産生の制御	京都	2007
原博満, 石原千歳, 竹内新, 今西 貴之, 吉田裕樹, 斎藤隆	第37回日本免疫学会 学術集会 国際シンポ ジウム	Differential regulation of innate immune signaling through Carma1 and CARD9	東京	2007
宮崎義之, 島ノ江洋平, 王森, 岩 倉洋一郎, 吉田裕樹	日本インターフェロン・ サイトカイン学会	クルーズ トリパノソーマに対する感染防御におけ る Interleukin-17 の役割	京都	2007
宮崎義之, 島ノ江洋平, 王森, 濱 野真二郎, 岩倉洋一郎, 吉田裕樹	第37回日本免疫学会 学術集会	Interleukin-17 is necessary for host's protection against acute phase Trypanosoma cruzi infection.	東京	2007
岡本英昭, 白石裕士, 水島昇, 吉 田裕樹	第 16 回日本アポトーシ ス研究会学術集会	神経前駆細胞の Apaf1 非依存的細胞死	千葉	2007
島ノ江洋平, 王森, 宮崎義之, 原 博満, 吉田裕樹	第37回日本免疫学会 学術集会	The role of IL-27/WSX-1(IL-27R) in experimental allergic rhinitis	東京	2007
Yoshida H., Miyazaki Y., Shimanoe Y., Wang S.	第76回日本寄生虫学 会大会	Interleukin-17 plays a role in successful resolution of Trypanosoma cruzi infection.	大阪	2007
吉田裕樹, 宮崎義之, 王森	日本インターフェロン・ サイトカイン学会	IL-27 による Th17 分化制御と免疫・炎症抑制機構 の解析	京都	2007
原博満, 吉田裕樹, 斎藤隆	沖縄感染免疫シンポジ ウム	Carma1 と CARD9 を介した自然免疫系の活性化 の制御	那覇	2007
原博満, 斎藤隆	第 16 回東京免疫フォー ラム	Carma1/CARD9 による免疫細胞活性化の制御	東京	2008
原博満, 石原千歳, 竹内新, Josef Penninger, 吉田裕樹, 斎藤隆	第5回感染症沖縄フォー ラム	Card9 は ITAM 含有レセプターを介した Myeloid cell の活性化に必須である	沖縄	2008
宮崎義之, 島ノ江洋平, 王森, 岩 倉洋一郎, 吉田裕樹	第5回感染症沖縄フォー ラム	クルーズ トリパノソーマに対する感染防御におけ る Interleukin-17 の役割	沖縄	2008
山本晶子, 甲本真也, 松橋幸子, 高井成幸	第 7 回日本蛋白質科学 会年会	ナミウズムシがもつ中間径フィラメント蛋白質 Djf-1 の免疫組織化学的解析	仙台市	2007
山本晶子, 松永賢一郎, 甲本真 也, 松橋幸子	第40回日本発生生物 学会 第59回日本細 胞生物学会 合同大会	プラナリアがもつ中間径フィラメント蛋白質 Djf-1 の細胞タイプ特異的発現と重合性	福岡市	2007
山本晶子, 甲本真也, 松橋幸子, 高井成幸	第 30 回日本分子生物 学会年会 第80回日 本生化学会大会 合同 大会	ナミウズムシにおける中間径フィラメント蛋白質 Djf-1 の器官特異的発現	横浜市	2007
甲本真也, 高崎洋三, 安藤祥司	第 30 回日本分子生物 学会年会 第80回日 本生化学会大会 合同 大会	マウス核ラミナ結合蛋白質 1B(LAP1B)の構造と 各組織における発現	横浜市	2007
松崎武経, 岡美佳子, 竹鼻 眞, 大石祐司	第 44 回化学関連支部 合同九州大会	水晶体蛋白質 Filensin および Phakinin によるビー ズフィラメントの形成	北九州市	2007

山本晶子、甲本真也、松橋幸子、高井成幸	第44回化学関連支部合同九州大会(北九州市、7/7)	プラナリアがもつ中間径フィラメント蛋白質 Djf-1 の組織・細胞内分布	北九州市	2007
Fukudome K, Kohara J, Tsukamoto H, Tsuneyoshi N, Kimoto M	日本免疫学会総会・学術集会	Adjuvant effects of agonistic anti-TLR4 monoclonal antibody in antibody induction	横浜市	2007
Tsukamoto H, Kohara J, Tsuneyoshi N, Kimoto M, Fukudome K	日本免疫学会総会・学術集会	Oligomerization-independent TLR4-signaling in CD14-negative cells	横浜市	2007
松下英友, 太田昭一郎, 金地佐千子, 木本雅夫, 出原賢治	日本免疫学会総会・学術集会	抗マウス TLR4 刺激抗体によるアレルギー性気道炎症の抑制	横浜市	2007
Shioya T, Ehara T	84th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan	A simple method for isolating single heart cells from mouse models.	大阪	2007
Yamamoto S, Ichishima K, Ehara T	84th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan	Loss of regulatory volume decrease in cardiac ventricular myocytes from streptozotocin-induced type-I diabetic mice.	大阪	2007
市島久仁彦、山本信太郎、顛原嗣尚	第58回西日本生理学会	$\alpha 1$ 受容体刺激によるマウス心筋型 IC1 swell の抑制に PI(4,5)P2 減少が関与する	福岡	2007
Aoyama T, Nakatsuka T, Koga S, Fujita T, Mizuta K, Takeda D, Kumamoto E	Society for Neuroscience 37th Annual Meeting	Extracellular ATP facilitates excitatory synaptic transmission in rat spinal motoneurons.	San Diego, U.S.A.	2007
Fujita T, Nakatsuka T, Liu T, Kumamoto E	Society for Neuroscience 37th Annual Meeting	Enhancement by PAR-1 activation of the spontaneous release of L-glutamate from nerve terminals in the adult rat spinal dorsal horn.	San Diego, U.S.A.	2007
Koga A, Fujita T, Liu T, Mizuta K, Nakatsuka T, Hasuo H, Kumamoto E	Society for Neuroscience 37th Annual Meeting	Tramadol presynaptically inhibits glutamatergic excitatory synaptic transmission in rat spinal dorsal horn neurons by activating μ -opioid receptors.	San Diego, U.S.A.	2007
Liu T, Fujita T, Yue H-Y, Piao L-H, Nakatsuka T, Kumamoto E	Society for Neuroscience 37th Annual Meeting	Phospholipase A2 activation enhances inhibitory synaptic transmission in rat spinal dorsal horn neurons.	San Diego, U.S.A.	2007
Nakatsuka T, Kosugi M, Fujita T, Aoyama T, Mizuta K, Tomohiro D, Kumamoto E	Society for Neuroscience 37th Annual Meeting	Direct activation of postsynaptic NMDA receptors by TRPA1-induced glutamate release onto substantia gelatinosa neurons of the adult rat spinal cord.	San Diego, U.S.A.	2007
Aoyama T, Nakatsuka T, Koga K, Fujita T, Kumamoto E	The 84th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan	Extracellular ATP directly excites motoneurons in the rat spinal cord by activation of P2Y1 receptors.	大阪府大阪市	2007
Fujita T, Liu T, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 29th Annual Meeting of the Japanese Association for the Study of Pain	Glutamate release enhancement by activating proteinase-activated receptor-1 in the adult rat substantia gelatinosa.	神奈川県横浜市	2007

Fujita T, Liu T, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 30th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society	Enhancement by PAR-1 activation of glutamatergic excitatory transmission in adult rat substantia gelatinosa neurons.	神奈川県横浜市	2007
Kosugi M, Nakatsuka T, Fujita T, Kumamoto E	The 84th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan	TRPA1 receptor-mediated enhancement of glutamate release onto substantia gelatinosa neurons of the adult rat spinal cord.	大阪府大阪市	2007
Kosugi M, Nakatsuka T, Fujita T, Kumamoto E	The 29th Annual Meeting of the Japanese Association for the Study of Pain	TRPA1-mediated facilitation of excitatory synaptic transmission in the spinal dorsal horn.	神奈川県横浜市	2007
Kosugi M, Nakatsuka T, Fujita T, Aoyama T, Kumamoto E	The 30th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society	Presynaptic TRPA1 activation enhances glutamate release onto substantia gelatinosa neurons of the adult rat spinal cord.	神奈川県横浜市	2007
Liu T, Fujita T, Yue H-Y, Piao L-H, Mizuta K, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 84th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan	Glycinergic and GABAergic inhibitory transmission are affected by phospholipase A2 activation in a manner different from each other in adult rat substantia gelatinosa neurons.	大阪府大阪市	2007
Liu T, Fujita T, Yue H-Y, Mizuta K, Piao L-H, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 30th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society	Enhancement by phospholipase A2 activation of glycinergic and GABAergic inhibitory transmission in rat substantia gelatinosa neurons.	神奈川県横浜市	2007
青山貴博, 中塚映政, 古賀秀剛, 藤田亜美, 熊本栄一	第 58 回西日本生理学会	脊髄運動ニューロンにおける ATP 受容体の機能的役割について.	福岡県福岡市	2007
柳 涛, 藤田亜美, 岳 海源, 朴蓮花, 水田恒太郎, 中塚映政, 熊本栄一	第 58 回西日本生理学会	ラット脊髄後角の GABA とグリシンによる抑制性シナプス伝達のメリチンによる促進.	福岡県福岡市	2007
青山貴博, 中塚映政, 古賀秀剛, 藤田亜美, 熊本栄一	第 3 回人工頭脳工学シンポジウム	ラット脊髄運動ニューロンにおける細胞外 ATP による直接的な興奮作用.	佐賀県佐賀市	2007
藤田亜美, 柳 涛, 中塚映政, 熊本栄一	第 3 回人工頭脳工学シンポジウム	ラット脊髄後角におけるプロテアーゼ受容体活性化は痛み伝達を制御する.	佐賀県佐賀市	2007
藤田亜美, 柳 涛, 水田恒太郎, 中塚映政, 熊本栄一	第 29 回脊髄機能診断研究会	Proteinase-activated receptor-1 活性化は成熟ラット脊髄膠様質で自発性興奮性シナプス伝達をシナプス前性に促進する.	東京都千代田区	2007
小杉雅史, 中塚映政, 藤田亜美, 熊本栄一	第 29 回脊髄機能診断研究会	脊髄後角における興奮性シナプス伝達に対する TRPA1 受容体活性化の作用.	東京都千代田区	2007
熊本栄一, 柳 涛, 藤田亜美, 岳海源, 水田恒太郎, 中塚映政	生理学研究所研究会「筋・骨格系と内臓の痛み研究会」	ホスホリパーゼ A2 活性化を介したラット脊髄膠様質ニューロンの GABA とグリシンによる抑制性シナプス伝達の促進.	愛知県岡崎市	2007
中塚映政, 小杉雅史, 藤田亜美, 熊本栄一	シナプス伝達ダイナミクス解明の新戦略 -シナプス伝達の細胞分子調節機構-	TRPA1 の活性化による興奮性シナプス伝達の増強.	愛知県岡崎市	2007

侯力, 朴美花, 徳永藏	第 39 回日本動脈硬化学会総会	Fumagillin と CYCLO による血管新生制御のメカニズム	大阪	2007
草野謙一郎, 宮本比呂志, 木寺一希, 恒富今日子, 宮崎純二, 山崎文朗, 徳永藏, 井之口昭	第 20 回日本口腔・咽頭科学総会学術講演会	桃におけるヘリコバクター・ピロリの培養可能性と胃ピロリ感染との比較検討	名古屋	2007
甲斐敬太, 北島吉彦, 宮崎耕治, 徳永藏	第 96 回日本病理学会総会	蛋白定量法としての蛍光二重免疫染色の有用性について	大阪	2007
Rahmawati Minhaja, 侯力, 甲斐敬太, 朴美花, 森大輔, 徳永藏	第 96 回日本病理学会総会	Efficacy of CD105 and Genistein with Tyrphostin in colorectal cancer models	大阪	2007
徳永藏, 森大輔, 朴美花	第 66 回日本癌学会学術総会	CD105 expression in angiogenesis of human colon cancer and the inhibition by anti-CD105 antibody in xenograft cancer	横浜	2007
戸田修二, 青木茂久, 内橋和芳, 蒲地紀之, 渡辺恵子, 米満伸久, 杉原甫	日本病理学会総会	マスト細胞(肥満細胞)は脂肪組織の血管新生を促進する マスト細胞の肥満における役割,		2007
青木茂久, 蒲地紀之, 内橋和芳, 渡辺恵子, 竹澤俊明, 杉原甫, 戸田修二	日本病理学会	各種間葉系細胞は特異的な微小環境を形成することで癌細胞の増殖・浸潤を調節する	大阪	2007
青木茂久 内橋和芳 戸田修二	分子病理研究会	骨髄間質細胞、真皮線維芽細胞は扁平上皮癌の浸潤を促進する	神奈川	2007
内橋和芳, 園田恵美子, 小池英介, 米満伸久, 杉原甫, 戸田修二,	日本内分泌学会学術総会	骨芽細胞とヒト骨髄脂肪組織の細胞間相互作用は骨髄のホメオスタシスに関与する		2007
内橋和芳, 青木茂久, 杉原甫, 戸田修二	日本病理学会総会	骨芽細胞とヒト骨髄脂肪組織の細胞間相互作用は骨髄のホメオスタシスに関与する		2007
内橋和芳, 重松正森, 戸田修二, 佛淵孝夫	日本整形外科学会基礎学術集会	骨芽細胞とヒト骨髄脂肪組織の細胞間相互作用は骨髄のホメオスタシスに関与する		2007
蒲地紀之, 内橋和芳, 青木茂久, 戸田修二, 杉原甫, 工藤祥	日本病理学会総会	放射線被爆線維芽細胞は癌扁平上皮癌細胞の浸潤性増殖を促進する		2007
園田恵美子, 内橋和芳, 小池英介, 米満伸久, 杉原甫, 戸田修二	日本内分泌病理学会学術総会	成熟脂肪細胞、前脂肪細胞及び間葉系幹細胞を有する多機能性脂肪組織の長期培養法		2007
阿南真由美, 田中直寛, 中島綾, 江頭泰博, 石橋裕二, 林田潔	日本循環器学会総会・学術集会	産褥期に発症した急性心筋梗塞の若年女性例		2007
田中寿人, 小峯光徳, 内橋和芳	西日本整形・災害外科学会	脊椎圧迫骨折後の脊椎硬膜外血腫3例の検討		2007
高島毅, 池田裕次, 宮園素明, 岸知哉, 青木茂久, 佐内透	日本腎臓学会 西部学術大会	MPO-ANCA 陽性で膜性腎症を示した慢性腎不全の1例		2007
岸知哉, 福島伯泰, 青木茂久, 高島毅, 中村晃子, 宮園素明, 池田裕次, 佐内透	日本腎臓学会 西部学術大会	末梢血 NK 細胞増多に合併した管内増殖性糸球体腎炎の一例		2007
大塚泰史, 酒井菜那, 岡政史, 佐藤忠司, 浜崎雄平, 安藤高志, 青木茂久	日本小児科学会学術集会	Alport 症候群の1家系からわかる臨床像		2007
大塚泰史(佐賀大学 医学部小児科), 飯盛智子, 岡政史, 酒井菜那, 佐藤忠司, 浜崎雄平, 青木茂久,	日本小児腎臓病学会学術集会	両側膀胱尿管逆流を合併した原発性巣状分節性糸球体硬化症の一例		2007

久野敏				
安座間真也, 今井詩乃, 中園貴彦, 工藤祥, 小屋松安子, 安永牧生, 青木茂久, 戸田修二	日本医学放射線学会 学術集会	Placental site trophoblastic tumor(PSTT)の一例		2007
金子新, 佐藤勇司, 藤山千里, 徳 田雄治, 有働和馬, 魚住二郎	日本泌尿器科学会総 会	腎癌細胞の増殖・分化に対する脂肪細胞の影響		2007
南里正之, 有働和馬, 藤山千里, 魚住二郎	日本泌尿器科学会総 会	Microwave Tissue Coagulator(MTC)を用いた腎部 分切除術摘出標本における熱変性部位の組織学的 的検討		2007
南里正之, 有働和馬, 川崎麻己, 藤山千里, 魚住二郎	日本腎臓学会学術総 会	Microwave Tissue Coagulator(MTC)を用いた腎部 分切除術標本における熱変性部位の組織学的検 討		2007
中園貴彦, 櫻木徹, 光岡正浩, 蒲 地紀之, 佐藤敏美, 工藤祥	日本医学放射線学会 学術集会	胸腺病変の病理像と画像所見		2007
富山裕介, 真崎拓朗, 徳田雄治, 中島のぶよ, 真崎善二郎, 魚住二 郎, 安永牧生, 岩坂剛, 明利浩行, 蒲地紀之, 戸田修二	日本泌尿器科学会総 会	傍尿道憩室由来と考えられた女子尿道腫瘍の 1 例		2007
田中直寛, 林田潔, 石橋裕二, 江 頭泰博, 阿南真由美	日本循環器学会総会・ 学術集会	重症感染症等により致死性心室頻拍が惹起され た IV 型重複前下行枝の一症例		2007
小池英介, 小池健太, 小池則雅, 沼真喜子, 小池眞美子, 小川尚洋, 戸田修二	日本甲状腺学会学術 集会	亜急性甲状腺炎後にバセドウ病を発症した 1 例		2007
Y. Ando, H. Miyamoto, et.al	26th Annual Meeting of the European Bone & Joint Infection Society	A Novel Antibacterial Biomaterial Containing Silver(2): Antibacterial activities in vitro and in vivo.	Greece	2007
Kukita A, Shobuie T, Asagiri M, Takayanagi H, Pessler F, Matsuo K, Kukita T	American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) 29Th Annual Meeting	The POZ-Zn Transcriptional Regulator OCZF/LRF Is Induced by RANKL and Increases c-Fos Expression in Osteoclastogenesis.	Honolulu, USA.	2007
T. Shobuie, T. Kukita, K. Nagata, J. Teramachi, M. Asagiri, H. Takayanagi, A. Kukita.	American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) 29Th Annual Meeting	Expression of OCZF Directed by the Cathepsin K Promoter Affects Bone Mass and Osteoclast Formation in Transgenic Mice.	Honolulu, USA.	2007
安藤嘉基, 宮本比呂志, 野田岩男, 嶋崎貴文, 宮崎真樹, 馬渡正明, 佛淵孝夫	第 30 回日本骨・関節感 染症学会	抗菌剤含有医療材料の有用性—エビデンスの構 築に向けて—銀系抗菌生体材料の開発(2) in vitro および in vivo 抗菌能の検討	山梨	2007
野田岩男, 安藤嘉基, 宮本比呂志, 嶋崎貴文, 宮崎真樹, 馬渡正明, 佛淵孝夫	第 30 回日本骨・関節感 染症学会	抗菌剤含有医療材料の有用性—エビデンスの構 築に向けて—銀系抗菌生体材料の開発(1) 銀 HA 溶射技術の開発と銀イオン溶出特性	山梨	2007

矢田光徳, 井上侑子, 鳥飼紀雄, 渡孝則, 野田岩男, 安藤嘉基, 宮本比呂志, 馬渡正明, 佛淵孝夫	第 30 回日本骨・関節感染症学会	抗菌剤含有医療材料の有用性—エビデンスの構築に向けて—銀系抗菌生体材料の開発(1) チタネートナノチューブの抗菌応用	山梨	2007
嶋崎貴文, 安藤嘉基, 宮本比呂志, 他	第 37 回日本人工関節学会	銀系抗菌生体材料の開発(5) -in vivo 抗菌性の評価-	東京	2007
菖蒲池健夫, 久木田敏夫, 永田健吾, 寺町順平, 朝霧成挙, 高柳広, 久木田明子	第 30 回日本分子生物学会年会	カテプシン K プロモーターにより OCZF が発現するトランスジェニックマウスの解析	横浜	2007
久木田明子, 菖蒲池健夫, 朝霧成挙, 高柳広, 久木田敏夫	第 25 回日本骨代謝学会	RANKL により発現が誘導される POZ-ZF 転写制御因子 OCZF は c-Fos 蛋白質を増加させる	大阪	2007
菖蒲池健夫, 久木田敏夫, 永田健吾, 寺町順平, 朝霧成挙, 高柳広, 久木田明子	第 25 回日本骨代謝学会	カテプシン K プロモーターにより OCZF が発現するトランスジェニックマウスの解析	大阪	2007
久木田明子, 寺町順平, 久木田敏夫	第 49 回歯科基礎医学会学術大会・総会	破骨細胞分化における転写因子の発現と細胞内局在	札幌	2007
塩野順, 久木田明子, 劉潔, 清水邦義, 近藤隆一郎	第 57 回日本材木学会	霊芝抽出物の破骨細胞分化抑制活性	広島	2007
久木田明子, 菖蒲池健夫, 朝霧成挙, 高柳広, 永田健吾, 寺町順平, 久木田敏夫	第 7 回西日本骨・関節関連疾患懇話会	POZ-ZF 転写制御因子 OCZF の破骨細胞分化における機能	福岡	2007
Matsumoto A, Ichiba M, Tomokoni K.	the 8th International Symposium of Aldh2 Knockout Mouse Research.	Hepatocyte necrosis is inhibited in ethanol administered transgenic mice lacking aldehyde dehydrogenase 2 activity.	福岡	2007
市場正良, 松本明子, 堀田美加子, 山下善功, 高橋達也, 小山倫浩, 川本俊弘, 友国勝麿.	第 77 回日本衛生学会	アルコールによる多環芳香族炭化水素DNA付加体形成への影響(3) —飲酒は発がんを促進するか。。	大阪	2007
松本明子.	第 42 回日本アルコール・薬物医学会等合同学術総会	飲酒が与える肝組織への影響における ALDH2 遺伝子多型の役割.	大津	2007
松本明子, 市場正良, 堀田美加子, 山下善功, 一瀬豊日, 小山倫浩, 川本俊弘, 友国勝麿.	第 77 回日本衛生学会	Aldh2 ノックアウトマウスにおける CYP2E1 発現の検討.	大阪	2007
山下善功, 山隈龍馬, 西村晃一, 高橋達也, 蒲池将史, 近藤敏弘, 上野大介, 市場正良, 宮島徹, 友国勝麿.	第 77 回日本衛生学会	佐賀環境フォーラムにおけるシックスクール問題への取り組み(3).	大阪	2007
Sherriff-Tadano R, Ohta A, Morito F, Mitamura M, Haruta Y, Koarada S, Tada Y, Nagasawa K.	Professor Leroy EC Memorial International Workshop on Scleroderma.	Anti-fibrotic effects of hepatocyte growth factor on scleroderma fibroblasts and analysis of its mechanism.	東京	2007
小荒田秀一, 三田村未央, 末松梨絵, 井上久子, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平	第 30 回日本臨床免疫学会	SLE における CD4+T 細胞の細胞分裂と Th1/Th2 サイトカインバランスの関係の検討	大阪	2007

多田芳史, 小荒田秀一, 三田村未央, 井上久子, 末松梨絵, 大田明英, 長澤浩平	第 51 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 16 回国際リウマチシンポジウム	RP105 分子のコラーゲン関節炎における作用の解析	横浜	2007
多田芳史, 小荒田秀一, 大田明英, 長澤浩平	第 37 回日本免疫学会総会・学術集会	Toll-like レセプターホモログ RP105 はコラーゲン関節炎の発症を抑制する	東京	2007
多田芳史, 小荒田秀一, 大田明英, 長澤浩平	第 27 回福岡臨床免疫研究会	Toll-like receptor homolog RP105 のコラーゲン関節炎における作用	福岡	2007
Sueoka E. Tomimasu R. Aragane N. Sato A. Hisatomi T. Komiya K. Fukushima N. Funai N. Kuwahara N. Ide M.	13th Int' l Conference on Human Retrovirology HTLV and related VIRUSES	Inhibition of Double-strand DNA Break Repair by hnRNP B1 Mediated through interaction with DNA-dependent Protein Kinase Complex in Adult T-cell Leukemia	箱根	2007
Sueoka N. Sato A. Iwanaga K. Komiya K. Kozu T. Sueoka E.	American Association for Cancer Research Annual Meeting 2007	Autoregulation of hnRNP A2/B1 gene promoter by hnRNP B1 protein, an early detection marker for lung cancer, and down regulation by DNA-PK complex in lung cancer cells.	Los Angels	2007
Sato A. Sueoka N. Iwanaga K. Tomimasu R. Hisatomi T. Komiya K. Sueoka E.	American Association for Cancer Research Annual Meeting 2007	Inhibition of DNA repair system by hnRNP B1, an early detection marker for lung cancers, mediated through direct interaction with DNA-dependent protein kinase complex.	Los Angels	2007
Aragane N. et.al.	66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	Autoregulation of hnRNP A2/B1 gene promoter by hnRNP B1 protein, an early detection marker for lung cancer.	横浜市	2007
Komiya K. et.al.	66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	Myc target gene, mina53, a role in lung carcinogenesis and its prognostic significance.	横浜市	2007
Sato A. et.al.	66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	Overexpression of hnRNP B1 inhibits DNA repair system by interfering DNA-PK complex assembly in lung cancer cells.	横浜市	2007
小宮一利, 荒金尚子, 櫻木徹, 光岡正浩, 林真一郎, 末岡榮三朗	第 48 回日本肺癌学会総会	Myc 標的遺伝子 mina53: 肺発癌における役割と予後因子としての可能性	名古屋市	2007
荒金尚子, 小宮一利, 林真一郎, 桜木徹, 光岡正浩, 末岡榮三朗	第 48 回日本肺癌学会総会	肺癌における EGF 受容体変異発生の宿主要因と機能的意義	名古屋市	2007
水田治男, 江里口誠, 黒田康夫	第 48 回日本神経学会総会	ハンチントン舞踏病の原因遺伝子、huntingtin 蛋白に結合する新たな因子の同定、解析	名古屋国際会議場	2007
Sato A, Sueoka N, Iwanaga K, Tomimasu R, Hisatomi T, Komiya K, Sueoka E	America Association for Cancer Research Annual Meeting 2007	Inhibition of DNA repair system by hnRNP B1, an early detection marker for lung cancers, mediated through direct interaction with DNA-dependent protein kinase complex	America	2007

N Sueoka, A Sato, K Iwanaga, K Komiya, T Kuzu, E Sueoka	America Association for Cancer Research Annual Meeting 2007	Autoregulation of hnRNP A2/B1 gene promoter by hnRNP B1 protein, an early detection marker for lung cancer, and down regulation by DNA-PK complex in lung cancer cells	America	2007
Sueoka E	The 8th Japan-Korea Joint Symposium on Cancer and Ageing Research	Carcinogenesis mediated through hnRNP B1: Molecular target for early detection and treatment		2007
Sueoka E, Tomimasu R, Aragane N, Sato A, Hisatomi T, Komiya K, Fukushima N, Funai N, Kuwahara N, Ide M	13th Int'l Conference on Human Retrovirology HTLV and related VIRUSES	Inhibition of Double-strand DNA Break Repair by hnRNP B1 Mediated through interaction with DNA-dependent Protein Kinase Complex in Adult T-cell Leukemia		2007
Kakimoto T, Ozaki I, Hamajima H, Nakashima M, Fujimoto K, Matsuhashi S.	108th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, DDW.	S-phase specific suppression of PDCD4 tumors suppresser in the cell cycle of Hela cells.	Washington, DC	2007
Shiraishi R, Fujise T, Kakimoto T, Kuroki T, Yamaguchi K, Watanabe K, Ootani H, Shimoda R, Tsunada S, Sakata H, Iwakiri R, Fujimoto K.	108th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, DDW.	Mechanism of colon carcinogenesis induced by dietary fatty acid and accelerating Wnt signaling.	Washington, DC	2007
Shiraishi R, Fujise T, Kakimoto T, Kuroki T, Yamaguchi K, Watanabe K, Ootani H, Shimoda R, Tsunada S, Sakata H, Iwakiri R, Fujimoto K.	108th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, DDW.	Dietary fatty acid composition and GSH affect rat colon carcinogenesis.	Washington, DC	2007
藤瀬剛弘、白石良介、柿本隆志、朴 幸明、山口加奈子、渡邊顕一郎、大谷 響、下田 良、綱田誠司、坂田祐之、岩切龍一、藤本一眞.	第 93 回日本消化器病学会総会.	摂取脂肪酸組成と大腸発癌.	青森	2007
藤瀬剛弘、岩切龍一、藤本一眞.	第 3 回日本消化管学会.	脂肪酸組織と酸化ストレス・大腸発癌.	東京	2007
柿本隆志、藤瀬剛弘、藤本一眞	第 3 回日本消化管学会	小腸粘膜の形態維持と中枢神経系との関連	東京	2007
Hamajima H, Ozaki I, Nakashima M, Xia J, Mizuta T, Matsuhashi S	BMB2007(第 30 回日本分子生物学会年会, 第 80 回日本生化学会大会 合同大会)	Regulation of programmed cell death 4 (PDCD4) by protein kinase C (PKC).	横浜	2007
Ide Y, Zhang H, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Hisatom A, Ozaki I	17th Asian Pacific Association for the Study of the Liver Conference	Inhibition of MMPs Expression by Vitamin K2 through PKC Pathway in Human HCC cells.	Kyoto	2007

Ide Y, Zhang H, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Hisatomi A, Ozaki I	42th Annual Meeting of the European Association for the Study of the Liver	Inhibition of multiple matrix metalloproteinase expression by vitamin K2 through protein kinase C pathway in human hepatocellular carcinoma cells.	Barcelona	2007
Ozaki I	BMB2007(第30回日本分子生物学会年会, 第80回日本生化学会大会 合同大会)	Regulation of tumor suppressor PDCD4 by transforming growth factor- β 1 and extracellular matrix integrin in human hepatocellular carcinoma.	横浜	2007
尾崎岩太、浜島弘史、張浩、井手康史、江口有一郎、安武努、水田敏彦	第43回日本肝臓学会総会	細胞外マトリックス受容体インテグリンを介した肝癌細胞の増殖制御	東京	2007
安藤嘉基、野田岩男、嶋崎貴文、宮崎真樹、馬渡正明、佛淵孝夫	日本人工関節学会	銀系抗菌生体材料の開発④バイオフィルム形成阻害能の検討	東京都	2007
安藤嘉基、宮元比呂志、野田岩男、藤野茂、嶋崎貴文、宮崎真樹	日本人工関節学会	銀系抗菌生体材料の開発②銀イオン溶出特性	東京都	2007
安藤嘉基、宮元比呂志、野田岩男、宮崎真樹、馬渡正明、佛淵孝夫	日本整形外科学会基礎学術集会	銀系抗菌生体材料の開発-銀含有ハイドロキシアパタイト溶射被膜からの銀イオン溶出特性-	浜松市	2007
安藤嘉基、宮元比呂志、野田岩男、嶋崎貴文、宮崎真樹、馬渡正明、佛淵孝夫	日本骨・関節感染症学会	5.銀系抗菌生体材料の開発(2) - in vitro および in vivo 抗菌能の検討 -	山梨県	2007
安藤嘉基、宮元比呂志、野田岩男、嶋崎貴文、馬渡正明、佛淵孝夫	日本整形外科学会基礎学術集会	銀系抗菌生体材料の開発-銀含有ハイドロキシアパタイト溶射被膜の in vitro におけるバイオフィルム形成阻害評価-	浜松市	2007
野田岩男、佛淵孝夫	日本骨・関節感染症学会	4.銀系抗菌生体材料の開発(1) - 銀 HA 溶射技術の開発と銀イオン溶出特性 -	山梨県	2007
野田岩男、嶋崎貴文、宮崎真樹、馬渡正明、佛淵孝夫、宮本比呂志、安藤嘉基、	日本人工関節学会	銀系抗菌生体材料の開発①コーティング技術の開発	東京都	2007
金子新、佐藤勇司、藤山千里、徳田雄治、有働和馬、魚住二郎	第95回日本泌尿器科学会総会、	腎癌細胞の増殖・分化に対する脂肪細胞の影響、	神戸	2007
野口光代、渡辺寿美子、安永牧生、中尾佳史、内山倫子、横山正俊、岩坂 剛	第48回日本臨床細胞学会総会 春期大会	子宮頸部細胞診の扁平上皮系病変における核DNA量測定、	千葉市	2007
野口光代、安永牧生、中尾佳史、内山倫子、横山正俊、岩坂 剛	第59回日本産科婦人科学会総会・学術講演会、	子宮頸部腺癌の細胞診標本における核DNA量測定、	京都市	2007
Ishikawa S, Nakabayashi J, Nakabayashi N, Hirata A, Okinami S	ARVO 2007 annual meeting	Neuroprotective effect of small interfering RNA targeted against caspase 3 on rat retinal ganglion cells induced by ischemia reperfusion injury in rat.	Fort Lauderdale(Florida)	2007
Nakabayashi J, Iwakiri R, Ishikawa S, Nakabayashi N, Koga T, Hirata A, Okinami S, Kobayashi K	ARVO 2007 annual meeting	Neuroprotective effect of small interfering RNA targeting against caspase on rat retinal ganglion cells damage induced by N-methyl-D-aspartate.	Fort Lauderdale(Florida)	2007

下村由起子・石川慎一郎・平田憲・沖波聡	第 101 回佐賀大学眼科臨床懇話会	Bevacizumab 硝子体内投与による脈絡膜毛細血管の窓構造の変化.	佐賀	2007
田中ふみ・中島瑞恵・下村由起子・古賀隆史・平田憲・沖波聡	第 99 回佐賀大学眼科臨床懇話会	水晶体囊真性落屑の電子顕微鏡的観察	佐賀	2007
Sherriff-Tadano R Ohta A, Morito F, Mitamura M, Haruta Y, Koarada S, Tada Y, Nagasawa K, Ozaki I	Professor E.Carwile LeRoy Memorial International Workshop on Scleroderma	Antifibrotic effects of Hepatocyte growth factor on scleroderma fibroblasts and analysis of its mechanism	Tokyo	2007
Kawano H, Duan P-G, Li M-Z, Masuko S	第 112 回日本解剖学会総会.	Collateral projections from the subfornical organ to the median preoptic nucleus and the paraventricular hypothalamic nucleus in the rat	大阪	2007
Li M-Z, Kawano H, Murata Y, Masuko S:	第 112 回日本解剖学会総会	A cystic structure at distal region of the rat filum terminale	大阪	2007
Kawano H, Duan P-G, Masuko S	第 30 回日本神経科学学会	Synaptic contacts between median preoptic neurons and subfornical organ neurons projecting to the paraventricular hypothalamic nucleus.	横浜	2007
Sherriff-Tadano R, Ohta A, Morito F, Mitamura M, Haruta Y, Koarada S, Tada Y, Nagasawa K.	Professor Leroy EC Memorial International Workshop on Scleroderma	Anti-fibrotic effects of hepatocyte growth factor on scleroderma fibroblasts and analysis of its mechanism.	Tokyo	2007
尾崎岩太、浜島弘史、張浩、井手康史、江口有一郎、安武努、水田敏彦.	第 43 回日本肝臓学会総会	細胞外マトリックス受容体インテグリンを介した肝癌細胞の増殖制御.	東京	2007
Kitajima S.	2nd International Meeting on Rabbit Biotechnology	Rabbit semen conservation	Paris	2007
小池智也, 北嶋修司, 森本正敏, 塩見雅志, 渡辺照男, 浅田祐士郎, 畠山金太, 範江林	第 24 回日本疾患モデル動物学会総会	動脈硬化病変の C 反応性蛋白 -その由来と病態生理学的重要性	筑波	2007
北嶋修司	第 95 回関西実験動物研究会	凍結精子による遺伝子組換えウサギの系統保存	神戸	2007
前田達弘, 劉恩岐, 詫広茂信, 北嶋修司, 森本正敏	第 25 回九州実験動物研究会	凍結融解後のウサギ精子受精能に及ぼす冷却速度の影響について	熊本	2007
Komoda H, Inoue T, Nonaka M, Kameda M, Uchida T, Nitto T, Node K.	第 71 回日本循環器学会学術集会	Anti-inflammatory Property of Azelnidipine.	神戸	2007
日塔武彰、武田裕司、吉武洋、仙道富士郎、荒木慶彦.	第 37 回日本免疫学会総会・学術集会	Structural divergence of GPI-80 in activated human neutrophils.	東京	2007
鄭旭光	中国物理学会年会	新幾何挫折物質 M2(OH)3X の新奇量子磁性	南京	2007

鄭 旭光	特定領域研究「フラストレーションが創る新しい物性」第1回トピカルミーティング	新奇量子磁性を示す遷移金属水酸塩化物の純良単結晶作製と磁気相関	京都	2008
鄭 旭光 萩原雅人 河江達也	日本物理学会第63回年次大会	d電子系四面体構造 $M_2(OH)_3X$ における特異反強磁性転移	大阪(近畿大学)	2008
萩原雅人 藤原理賀 吉田和太 鄭 旭光 河江達也	日本物理学会第63回年次大会	幾何学的フラストレーション物質 $Co_2(OH)_3Cl$ における陽イオン及び陰イオン置換効果	大阪(近畿大学)	2008
家永紘一郎 中家義隆 赤司淳 稲垣祐次 河江達也 萩原雅人 鄭 旭光	日本物理学会第63回年次大会	$R_2(OH)_3Cl$ 系($R:Ca, Mn$)の磁場中比熱測定	大阪(近畿大学)	2008
善明和子 久保英範 浜崎達一 萩原雅人 鄭 旭光 河江達也	日本物理学会第63回年次大会	幾何学的フラストレーション系 $M_2Cl(OH)_3(M:Cu, Mn, Co)$ の NMR	大阪(近畿大学)	2008
前川覚 佐藤衆一 小山田明 伊藤哲明 鄭 旭光	日本物理学会第63回年次大会	四面体構造フラストレート $s=1/2$ 磁性体 $Cu_2(OH)_3Cl$ の NMR	大阪(近畿大学)	2008
鄭 旭光	平成19年度ミュオン共同利用実験成果報告会	新幾何学的フラストレーション物質 $M_2X(OH)_3(M=$ 磁性イオン, $X=$ ハロゲン)の μ SR 研究/磁性ナノ粒子のスピンドYNAMICS研究	筑波	2008
前川覚 佐藤衆一 小山田明 伊藤哲明 鄭 旭光	特定領域研究「フラストレーションが創る新しい物性」第1回トピカルミーティング	パイロクロア型 d 系 $s=1/2$ 量子磁性体 $Cu_2(OH)_3Cl$ の新奇磁性	京都大学	2008
萩原雅人 鄭 旭光 山田浩 岸和人	第10回連携大学院産学官交流セミナー	新規幾何学的フラストレーション物質の開発及び特異量子磁性の解明	産業技術総合研究所九州センター	2008
鄭 旭光 萩原雅人 河江達也	日本物理学会第62回年次大会	四面体構造を持つ d 電子系幾何学的フラストレーション物質 $M_2(OH)_3Cl$ の新奇磁性	北海道大学	2007
萩原雅人 山下健 藤原理賀 鄭 旭光 河江達也	日本物理学会第62回年次大会	新しい幾何学的フラストレーション系物質 $Co_2(OH)_3Cl_{1-x}Br_x$ における四面体歪みの制御及び磁性変化	北海道大学	2007
小山田明 岸本雅之 伊藤哲明 前川覚 鄭 旭光	日本物理学会第62回年次大会	カゴメアイス物質 $Co_2(OH)_3Cl$ の核磁気共鳴	北海道大学	2007
善明和子 久保英範 時田正彦 萩原雅人 鄭 旭光 浜崎達一	日本物理学会第62回年次大会	幾何学的フラストレーション系 $Co_2(OH)_3Cl$ の NMR	北海道大学	2007
鄭 旭光 萩原雅人 河江達也	第113回日本物理学会九州支部例会	新規カゴメアイス物質 $Co_2(OH)_3Cl$ における低温短距離秩序の発達	大分大学	2007
行徳俊英 鄭 旭光 小田部庄司	第113回日本物理学会九州支部例会	Cu_2OCl_2 における置換効果	大分大学	2007
藤原理賀 萩原雅人 鄭 旭光 河江達也	第113回日本物理学会九州支部例会	$(Co_{1-x}Fe_x)_2(OH)_3Cl$ における磁気秩序とガラス的性質の共存	大分大学	2007
萩原雅人 鄭 旭光 河江達也	第113回日本物理学会九州支部例会	$Co_2(OH)_3Cl_{1-x}Br_x$ 混晶系における複雑磁気転移—四面体制御及び磁性への影響	大分大学	2007

久保英範 善明和子 時田正彦 浜崎達一 萩原雅人 鄭 旭光	第 113 回日本物理学会 九州支部例会	幾何学的フラストレーション系 $\text{Co}_2\text{Cl}(\text{OH})_3$ の NMR	大分大学	2007
山下健 萩原雅人 鄭 旭光 河 江達也	第 113 回日本物理学会 九州支部例会	幾何学的フラストレーション物質 $\text{Cu}_2(\text{OH})_3\text{Br}$ の構造と磁性	大分大学	2007

外部資金			
代表者名	資金の名称	研究課題	金額(千円)
高椋 利幸	科学研究費補助金 基盤研究C	常温イオン液体を吸着剤とした分子性液体の吸着・吸収挙動と構造	3,900
兒玉宏樹	財団法人電力中央研究所	地下水の溶存有機物評価に関する研究	2,000
兒玉宏樹	海洋エネルギー研究所共同利用研究	海洋深層水中の腐植物質の特性評価	200
楠田哲也	技術振興調整費重要課題解決型政策研究(安全・安心)	有明海生物生息環境の俯瞰型再生と実証試験	3,000
楠田哲也	技術振興調整費重要課題解決型政策研究(安全・安心)	有明海生物生息環境の俯瞰型再生と実証試験	2,000
花本 猛士	機能物質化学科に対する教育研究助成		150
長田 聡史	科学研究費補助金 基盤研究C	ミメティックプローブによるN末端メチオニン認識機構の解明と生体防御への応用	2,600
穴井 豊昭	応用生物科学科に対する教育研究助成		500
穴井豊昭	(独)農業生物資源研究所 ジーンバンク事業	ダイズ脂肪酸組成の評価と新規アッセイ系を用いた脂肪酸不飽和化酵素遺伝子群の多様性についての解析	2,000
穴井豊昭	(独)農業生物資源研究所 アグリ・ゲノム研究の総合的な推進	開花期 QTL の候補遺伝子に関する変異体のスクリーニング	2,000
穴井豊昭	文部科学省 ナショナルバイオリソースプロジェクト	ミヤコグサ・ダイズ遺伝資源の種子成分分析	3,000
穴井豊昭	(財)佐賀県地域産業支援センター 地域研究開発促進拠点支援事業(可能性試験)	高オレイン酸含量ダイズ品種”オレリッチ 50”を使用した健康志向豆乳及び豆腐の開発	2,000
柳田 晃良	科学研究費補助金 基盤研究(C)	機能性脂質による生活習慣病の予防と改善に関する研究	2,990
永尾 晃治	科学研究費補助金 若手研究(B)	モデル動物を用いたメタボリックシンドロームの発症機作解明と食環境による予防と改善	1,400
永尾 晃治	生命機能科学科に対する教育研究助成	大豆タンパク質由来機能性ペプチドの検索	1,000
飯笹英一	科学研究費補助金(特別研究員奨励費)	ロイシンリッチリピート受容体キナーゼとそのリガンドの相互作用機構の解明	900
鈴木 章弘	科学研究費補助金 基盤研究(C)	根粒菌との共生窒素固定能が強化された新規マメ科植物の解析	2,730

鈴木 章弘	生物環境科学科に対する教育研究助成(住友財団基礎科学研究助成)	共生窒素固定能を強化した新規マメ科植物創成のための基礎研究	700
吉賀 豊司	科学研究費補助金 若手研究(B)	昆虫病原性線虫およびその共生細菌の分子系統解析と共生メカニズムの解明	800
早川 洋一	科学研究費補助金 萌芽研究	昆虫の新規ストレス応答機構の解明とその利用	1,800
早川 洋一	科学研究費補助金 基盤研究(B)	昆虫サイトカインレセプターの構造と細胞内情報伝達系因子の解析	4,940
副島英伸	科学研究費(基盤研究 C)	ゲノム刷り込み機構解明の二方向アプローチ	1,500
原博満	科学研究費補助金基盤研究(C)	ITAM保有受容体のNF- κ B活性化シグナル伝達機構と生理的役割の解明	2,860
原博満	武田科学振興財団	ITAM 保有 Non-Toll like receptor を介する免疫反応の生理的役割	2,000
原博満	持田記念医学薬学振興財団	CARD9/CARD11 を介した免疫制御機構の解明	1,000
原博満	上原記念生命科学財団	ITAM 受容体の免疫生理学的機能の解明	5,000
原博満	金原一郎記念医学医療振興財団	ITAM 関連受容体の感染防御および自己免疫病における役割	450
原博満	内藤記念科学奨励金	CARD9/CARD11 によって制御される ITAM 受容体の感染防御及び自己免疫病における役割の解明	2,000
宮崎義之	科学研究費補助金・若手研究(B)	IL-27 受容体シグナルによる炎症制御機構の解明および治療応用に関する研究	2,000
吉田裕樹	科学研究費補助金・特定領域研究(2)	小胞体ストレス誘導性細胞死におけるミトコンドリアの関与とその異状による細胞死抵抗性	4,700
吉田裕樹	科学研究費補助金・特定領域研究(2)	原虫感染時のサイトカインによる免疫・炎症病変形成機構の解析とその治療応用	7,400
吉田裕樹	科学研究費補助金・萌芽研究	ループスエリテマトーデス発症における Th17 細胞集団の果たす役割とその制御機構	1,100
吉田裕樹	科学研究費補助金・基盤研究(B)	脈絡膜血管新生病における自然免疫細胞群の関与とその治療への応用	4,500
塚本宏樹	科学研究費補助金・若手研究(B)	感染症治療に向けた新しい LPS 認識分子アディポネクチンの機能の解明	2,200
常吉直子	科学研究費補助金・若手研究(B)	MD-2 血中濃度測定法の開発	1,300
福留健司	JST シーズ発掘試験	大腸菌発現系を利用した病原体認識分子のハイスクリーンスクリーニング	2,000
柳(石原) 圭子	科学研究費補助金・基盤研究(C)	電気生理学的および光学的手法を用いた内向き整流カリウムチャネルの分子機構の解明	3,510
山本信太郎	科学研究費補助金・若手研究(B)	肥大型心筋症マウスを用いた心筋クロライドチャネルの機能解析と心不全進展への関与	900
顕原 嗣尚	科学研究費補助金 基盤研究(C)	心筋CFTRクロライド電流のキナーゼ調節とpH 感受性新規クロライドチャネルの解析	1,040

熊本栄一	文部科学省研究費補助金, 基盤研究(C)	ラット脊髄後角の痛み伝達制御におけるアラキドン酸カスケードの役割	3,900
中塚映政	平文部科学省研究費補助金, 基盤研究(C)	神経因性疼痛モデルラットにおける P2X 受容体を介した痛覚情報伝達制御機構の解析	1,300
中塚映政	AstraZeneca Research Grant 2007	A potential therapeutic target for the treatment of pathological pain sensations	2,000
藤田亜美	文部科学省研究費補助金, 若手研究(B)	ラット脊髄後角の痛覚伝達制御におけるプロテアーゼ受容体とTRPチャネルの相互作用	2,400
藤田亜美	神経細胞生理学研究助成奨学寄附金	Society for Neuroscience 37th Annual Meeting (San Diego, U.S.A) 参加のための旅費	100
戸田修二	科研費 基盤研究(C)	気相-液相界面の喉頭癌細胞増殖・浸潤活性化における細胞膜マイクロドメインの役割	1,400
戸田修二	科研費 基盤研究(C)	脂質摂取による大腸癌発生促進機序の解明	1,300
戸田修二	中期計画実行経費	癌幹細胞-間質細胞相互作用と癌幹細胞の増殖・分化機構の解明:癌幹細胞標的療法の基礎的研究	1,100
青木茂久	中期計画実行経費	癌間質細胞が決定する腫瘍悪性度:癌間質標的療法への基礎的研究	700
桧垣靖樹	科学研究費補助金 基盤研究(C)	骨格均糖取り込み機序における酸化ストレス及び筋収縮刺激の相互作用の解明	1,024
桧垣靖樹	科学研究費補助金 基盤研究(B)	骨格筋のエネルギー代謝関連の遺伝的要因と運動適応能	800
荒金尚子	喫煙科学研究財団助成金	肺がんにおける EGF 受容体変異発生の宿主要因と機能的意義	2,000
荒金尚子	基盤研究(C)	ATL の発症・進展における DNA 修復阻害因子 hnRNP B1 の作用と治療への応用	3,000
荒金尚子	基盤研究(C)	多発性硬化症の疾患特異的マーカーの検出:髄液抗 RNP-A2/B1 抗体の意義	1,900
尾崎岩太	医学部研究者育成支援事業	腫瘍抑制遺伝子 PDCD4 の肝細胞癌における発現調節と機能に関する研究	900
魚住二郎	文部科学省研究費補助金・基盤研究(C)	尿細管上皮の増殖、構造・機能分化に与える脂肪組織の影響の解析および再生機構の解明	1,100
佐藤勇司	文部科学省研究費補助金・若手研究(B)	骨髄幹細胞(前駆脂肪細胞)の前立腺癌への影響:シグナル伝達の網羅的解析	1,300
北嶋修司	科学省研究費補助金・基盤 C	新規遺伝子組換えウサギによるメタボリックシンドロームにおける PPAR の役割の解明	1,000
北嶋修司	科学省研究費補助金・基盤 C	C 反応性蛋白トランスジェニックウサギを用いた動脈硬化の発生機序の解明	700
鄭 旭光	科学研究費補助金 基盤研究B	新しい幾何学的フラストレーション系物質-水酸塩化物における新奇量子磁性の解明	9,620